

渡獨記

上

自昭和十八年十一月廿
五日起至二十一年十二月
廿五日止

60

東京市本郷区西片町一〇と八

(小五門一〇五〇)

所有者

伊東忠太

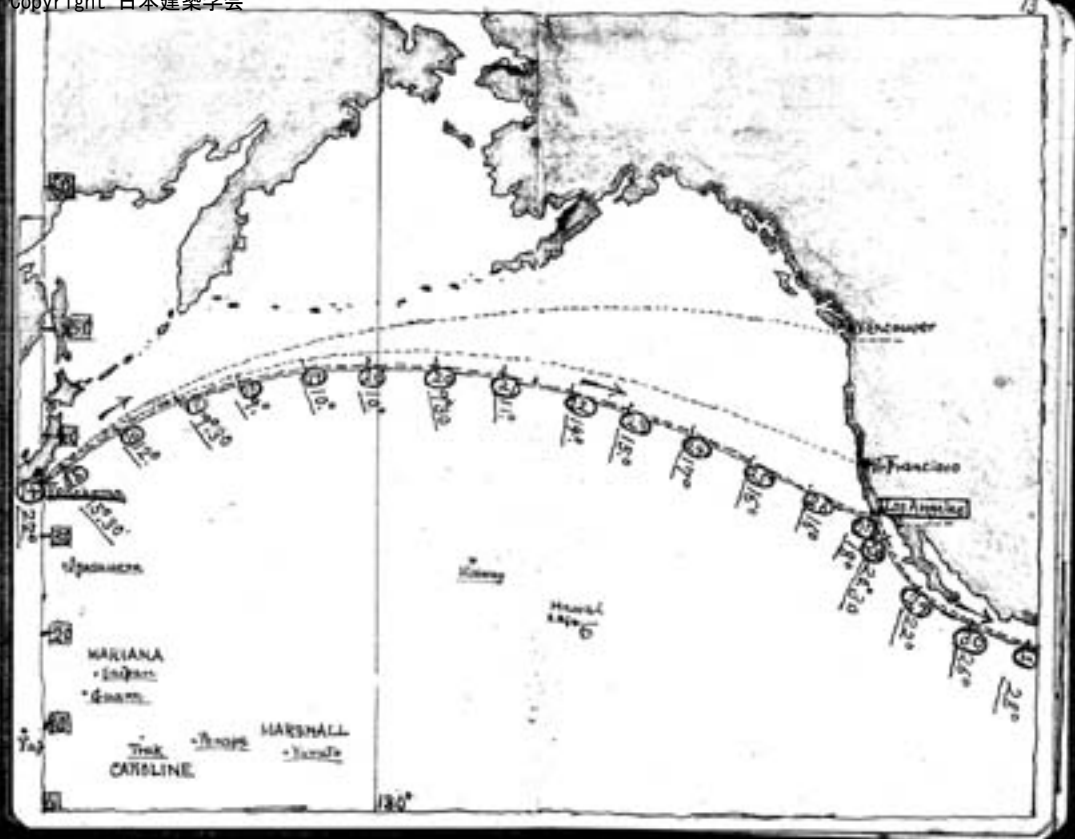
Gen. Chuta Ito
Tokyo House-
No. 10

Japanese Trade
Tokyo
No. 10
Chuta Ito
130

10-11-85-91 102 4/20/86

▲明治日本を救った国と人

[illegible]



十一月 二十三 日

気温 14°

昨夜睡眠不足のため、今日は朝より仮眠に入る。日曜日のため、身持弛緩せざる由。

午のブランチは海開き後に時の移るを知る。吾院山の園を散策して之を写しおどす。

夜食は地理院の花を喰ふ。おどしおどし海産の魚を喰ふ。おどしおどし海産の魚を喰ふ。

今日午前中に清々見へす。船は飯田の土の里に落ちた。とて貴れとて知らずといふ。おどしおどし海産の魚を喰ふ。おどしおどし海産の魚を喰ふ。おどしおどし海産の魚を喰ふ。

十一月 二十三 日

気温 15°

終日曇。波浪少しく増大。船はローリングを始む。南風吹き来と船を横打す。おどしおどし海産の魚を喰ふ。おどしおどし海産の魚を喰ふ。おどしおどし海産の魚を喰ふ。

唯洋黒目
有上波鶴
有無苦報
有曆暮晚
有食日躍

十一月 二十四 日

気温 17°

南風吹け。波浪上。日光現る。船の移動は地上の一点より水平線までの距離を算出する。おどしおどし海産の魚を喰ふ。

$L = \sqrt{R} \times 1.15$ (R: 目の高さ (尺単位))
L: 目の高さの長 (海軍式)

今夜は日本古代の戦法、戦の儀礼を考へて興あり。飯田の字を置きおどしおどし海産の魚を喰ふ。

十一月 二十五 日

気温 16°

今日は朝の雨。白雲。信天翁が白く。小舟は船長より船の Tonnage 及び積載量を問ひ。おどしおどし海産の魚を喰ふ。おどしおどし海産の魚を喰ふ。おどしおどし海産の魚を喰ふ。

十一月 二十六 日

気温 16°

天晴る。午前十一時より船は山の山見。おどしおどし海産の魚を喰ふ。おどしおどし海産の魚を喰ふ。おどしおどし海産の魚を喰ふ。

11月 27日

今朝 Los Angeles の港口 S. Pedro = 投錨し、
 船は横濱へ来た。いかに船は横濱へ来た。調査
 今朝船は横濱へ来た。いかに船は横濱へ来た。調査
 今朝船は横濱へ来た。いかに船は横濱へ来た。調査

今朝船は横濱へ来た。いかに船は横濱へ来た。調査
 今朝船は横濱へ来た。いかに船は横濱へ来た。調査
 今朝船は横濱へ来た。いかに船は横濱へ来た。調査

今朝船は横濱へ来た。いかに船は横濱へ来た。調査
 今朝船は横濱へ来た。いかに船は横濱へ来た。調査
 今朝船は横濱へ来た。いかに船は横濱へ来た。調査

今朝船は横濱へ来た。いかに船は横濱へ来た。調査
 今朝船は横濱へ来た。いかに船は横濱へ来た。調査
 今朝船は横濱へ来た。いかに船は横濱へ来た。調査

長瀬十八度

今朝船は横濱へ来た。いかに船は横濱へ来た。調査
 今朝船は横濱へ来た。いかに船は横濱へ来た。調査
 今朝船は横濱へ来た。いかに船は横濱へ来た。調査

今朝船は横濱へ来た。いかに船は横濱へ来た。調査
 今朝船は横濱へ来た。いかに船は横濱へ来た。調査
 今朝船は横濱へ来た。いかに船は横濱へ来た。調査

Los Angeles

11月 27日

San Pedro = 香港、北の、半 Los Angeles 市、
 長さ 20 哩の地点、全長 130000 呎
 Hollywood ハリウッド、
 長さ 20 哩の地点、全長 130000 呎

長さ 20 哩の地点、全長 130000 呎
 Hollywood ハリウッド、
 長さ 20 哩の地点、全長 130000 呎

長さ 20 哩の地点、全長 130000 呎
 Hollywood ハリウッド、
 長さ 20 哩の地点、全長 130000 呎

長さ 20 哩の地点、全長 130000 呎
 Hollywood ハリウッド、
 長さ 20 哩の地点、全長 130000 呎

長さ 20 哩の地点、全長 130000 呎
 Hollywood ハリウッド、
 長さ 20 哩の地点、全長 130000 呎

長さ 20 哩の地点、全長 130000 呎
 Hollywood ハリウッド、
 長さ 20 哩の地点、全長 130000 呎

長さ 20 哩の地点、全長 130000 呎
 Hollywood ハリウッド、
 長さ 20 哩の地点、全長 130000 呎

長さ 20 哩の地点、全長 130000 呎
 Hollywood ハリウッド、
 長さ 20 哩の地点、全長 130000 呎

長さ 20 哩の地点、全長 130000 呎
 Hollywood ハリウッド、
 長さ 20 哩の地点、全長 130000 呎

十一日 二十九日

五、混 = 十二度

[illegible][illegible]

忠・孝・廉・義の徳あり。

今日西澤雄之進へ勉學圖あり

十一月 三十日 火

九 攝三十四座一二五六座

天氣晴朗，風浪無。

神戶のササノ川と伊予の瀬田の瀬とを連ねて東南:

金日成同志在二月二十三日理髮時，被憲兵署用一
二枚拉黑人的劣彈，

源天文与地志本, 卷。土地正量一德上二關切。

地產保險：火險、水險、意外險。

Division: 智/小三見)中。是書也。見各(解)之望(通)讀(24
(24)

六、深望其来以返电于国也。曰：《

「うらた、お母さんにもちやうど、おれり」云々

十二月 一日

景儀二十八歲

天竺諸國、服波多、海面、小國、如、衆、如、也、

民國卅四年二月九日

予の筆衣一枚の要とある。

船は東南東に走り夜アカブーの港口沖に至り、

唯離山連山を見る處、二三尺の出入、高山の中

昨14日の高層気象観測の結果から推定するに

坐うぢ。

水入沼より水運あり、曰く

¹¹ 見表 1 和表 2。以 2002 年 1 月 1 日為起點，至 2002 年 12 月 31 日為止。

即ち直ちに送電して曰く

十二月二日 未

卷二十八

梅峰三時半頃、假想を起して天候を鑑み

子格長一令誤解ス、シ母アス、カナハス時種在是也

二輝くさる。一尺河へ流れて星斗を照らす。

[illegible]

7月4日、北平の河沿いの路邊に、南

袖ヲ持来ス Southern Cross 星十字

是形ヲ示ス。ヤガテ果テ由ニ出シ

次：星之清工時金星、太陽、光

鮑氏平定人：詳 770 年卷六時五外

海ノ水平面上：海（海）

我々が本誌のすくすく眼を眩ます。

一、大正の安がくは、澄もア透肌アル望の
赤い色を………

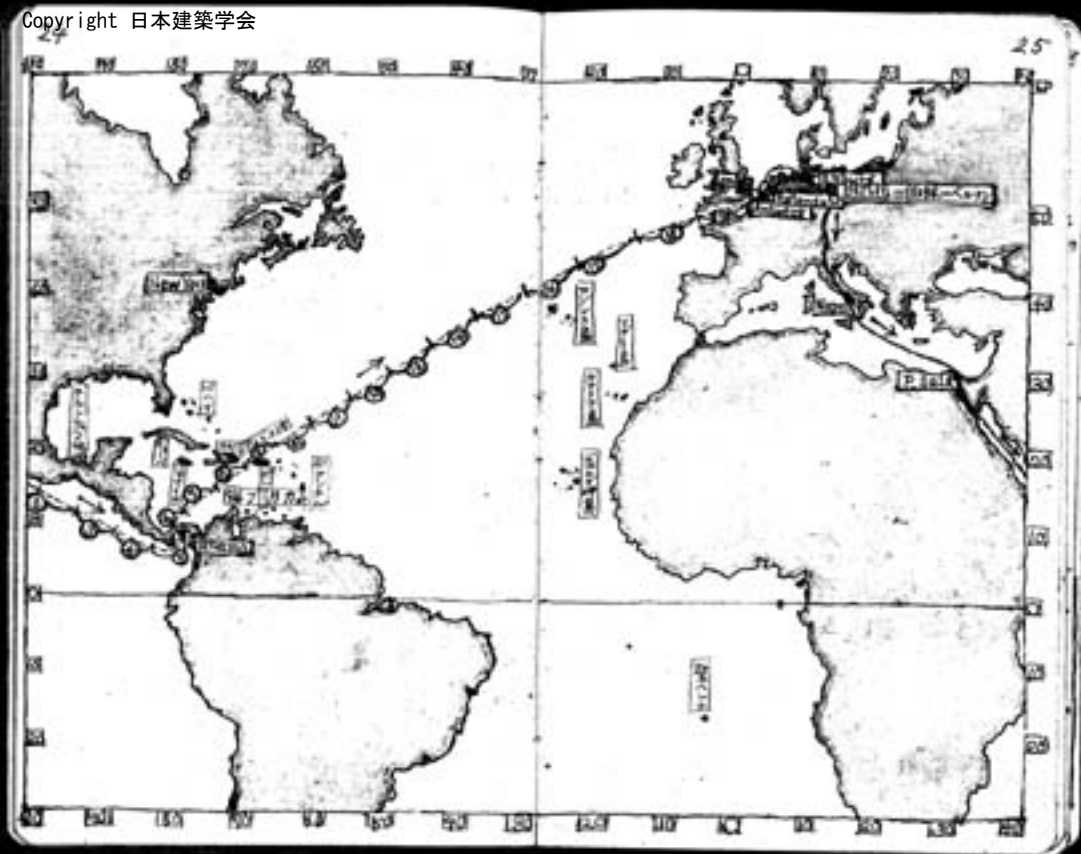
[illegible]

大正十一年四月二十日

今日ハコノ世ニ像ト云フと終日眞實ニ

風波強し予ると予バニ 山座より世風

之ひれはあう。



あり、海島大島 = Hurricane = Segechone. (小島は)
 貴島にて現在直轄 3000 程の島あり。

0-1 靜風 (計速 1-1.2^m)

2-3 散孔 (16-24)

 $4-\delta^-$ $F_R \sim (5.5-10.7)$

6-7 馬鹿 (10.8—17.1)

P-7 熊胆 (172-244)

10— 總記 (445—)

波蘭表

「大地」を評するに及んで感歎の至である。
 数行又以上の小説を讀む。この文が、この國情、人情、風俗、習慣、世相等
 を正確なく描寫せしめ、著者の半婦人としての
 透徹の小説筆法の巧み編み上げた技巧著
 者現代小説中の雄々たる筆と果す。

十二月十六日(木)

17

今日は一日の曇り、風浪甚しく午後一時に霧下り、
おなほ可なり。諸君、ロンドン迄の旅費お支払い願へる。
貴族の如く御座る中、今日一日静養するにせよ。

夜、窓の外に月が照り、静かに寝る。

ペーのページの(母)の第一章を聞く。支那農村の
の傳は描寫甚だ巧妙なる中(大地)ほどの

變味なき巨變曲、但し終局まで聞かれば
涙も雅也

表より終末まで、風・雨す。湿度殊に煙火
の熱を圍む大に密着あり。

路很快(體)地。

十二月十七日

5. 22. 15

引きばき一夫需み殺され陰舞使ふし、東
春まで日光を見るべしと云ふべしと云ふ大に
悲哉。北政の諸國がより陰舞ある土地
に應はずして南方偏陽の地み欲しと云ふ
ことと思ふ。

ロンドン着後つぎを以てロンドンの調査を始めた。

本一子子揮毫日亦也，快哉乎

我々度子は船中を行行せしむる試み、一側を

入海あり入海ありと云。

水は浅くはれぬと云ふ事なり。

これより一側を航行せしむ。

ロンドン一帯の滞在日程を号へ。大抵の事
又はロンドンに滞在することゝ決定す。船中
泊して毎日市街を見物せしむるは最も不便なる事
なり。第一停泊中の船中にて両便を享受せしむる
用便はもつた所産上陸せざるべからず。ドックはロ
ンドンの端末にて船廠の地あり。市街の中心まで
四哩半の遠き所なり。先づ夜は危敷あり。提督
H. M. S. の船中にてありと云ふ。先づ New York
にては白昼に電報の中にて Hold up 破れとい
ふ。野暮田の事なり。故に云ふ。
英米等は船が石にて船殻の破れを察して居る。

倫理道徳はせしむる事なり。船中にてあり。

十二月十八日(土)

気温 13°

昨日より風寒、波静なり。今日より風寒は相
ち。霧はそれ程深く船の針路はさぐつ。大
感の由り。今日より風寒は相ち。今日より風寒は相
ち。今日より風寒は相ち。今日より風寒は相ち。

今日は天気よく入る。今日より風寒は相ち。

ロンドンに上陸して船中にてあり。

今日より風寒は相ち。今日より風寒は相ち。

今日より風寒は相ち。今日より風寒は相ち。

今日より風寒は相ち。今日より風寒は相ち。

今日より風寒は相ち。今日より風寒は相ち。

今日より風寒は相ち。今日より風寒は相ち。

今日より風寒は相ち。今日より風寒は相ち。

今日より風寒は相ち。今日より風寒は相ち。

今日より風寒は相ち。今日より風寒は相ち。

十二月十九日(日)

気温 17°

今日より風寒は相ち。今日より風寒は相ち。

今日より風寒は相ち。今日より風寒は相ち。

今日より風寒は相ち。今日より風寒は相ち。

今日より風寒は相ち。今日より風寒は相ち。

今日より風寒は相ち。今日より風寒は相ち。

今日より風寒は相ち。今日より風寒は相ち。

今日より風寒は相ち。今日より風寒は相ち。

休言東西道相違
北平以南道相違
一先

十二月二十日(月)

気温 3.0°

今晚三時船はアラスカのドクに入る程である。夜中は果して濃霧掩れ来る。天地晦冥咫尺を辨せず。船は幾少の速もと能はざるに達し、河中に停船して殆ど同船なく警鐘を鳴らす。河中は数十の船皆停船し居るを相見へず。警邏の小船其の間を巡りて時々警を理す。

午後十時頃より天少く明るく、十一時は薄日光現れる。大小幾多の船中程を航行しては消えて行く風情は又興味あり。午後三時頃船は通人日没後 being aware of the darkness に入り停船する。例の如く船民の調査を授く。吾等氏は往來上下船し、乗船は予定と行き共三ノ大船に於て逗留するにす。

国際汽船ロンドン支店長(浦三)氏來訪す。目下川上諸君在留中につき船艙一室の會客を催すべしと云へる。

夜の国際汽船の役員等來り會談す。何れも其來の對日熱意は痛切なり。

予停船の気温を問ふ。知者ある船は寒暖計あるを歸るや問知れず。日(倭人)の寒暖計は何れ無閑にあり。寒を寒とし暖を暖とするや。體之人は成り度心を有り。と如何の英人の科學思想に及ぶかを大なる。

十二月十一日(火)

37

早朝下船の準備を終ると、視察來り。荷物を檢す。船長等と其の自動車を以て出かける際番方にて上陸視一人につき5分を辨はせらる。妙なる規則あり。

埠頭より西走約 3 Miles まで中央部へ達し同船汽船支店を訪ひ、ロンドン銀行の大通りを二 Miles 歩みて大船のドクに入る。途中の美第 32 号着雪道の時に大雪あり。市街街道は皆古色蒼然たる古式のものに對して Modern 建築を見ず。新築のものは皆無きやとて幾回かの停泊するを要す。

停泊は120馬力の自動車、巨大なるバス、何れも結構なる車を發したる。馬車等殆んどして混雜する。日本と云ふ處は月形車小僧の婦人と云へる。此の車は乗客の無きことあり。通人は何れも野原にきたる人等よりは洋装 (Los Angeles) に見えたる如く天地雪泥の景あり。却ては無造作の背處にシムハツトを被り、フロックコートに無帽なるもの、オクタイは段と段を黒く又は暗色にて、靴も皆赤い。赤い靴は用なり。女も皆赤い靴を被る。但し何れもノンビリとして進み、其態度も良き所、悪くもば強気なところあり。其は幾くも居るありとすべし。

正午大船に於て居る。この地ロンドンの中心にあらず。近所は日來り居るあり。料理店、旅館は其の向ひあり。大船は其の向ひあり。目下は船とすべし。大船泊り。上等の客は一室一日10金(新銀)に、客は別々金に別あり。予は12金あり。客は10金あり。

夜二浦国際ホテルの宴会

今夜の献立を先ず、乾杯がなされた、
 三浦が之を(一四七十五)、等して正の日本
 五倍の相場と思へば可なり。米國のこの
 五倍の十倍あるは此の位であるが、此の
 三浦は、此の位に倍する高し。
 夜二浦国際ホテルの宴会は、晚餐会に
 11品、食味は日本人が、金若二、大鯛、蟹、
 等の地代表者、川上清良、加藤医師、財務官
 事務人三名、合計十八人、日中料理の香饈打
 ち、歡を満ちかかち、予ハ方より、廣間に遊び
 應答するを努む。川上君は偶然の会見、ハ海に
 大入り、十時迄は熱口、快よく、夜は静

十二月二十二日(水)

今朝は温昇り寒さを受へず、此ハロンドンの冬ハ
 この程度の寒さありと聞て意外に感あり。
 香椎丸はロンドン入港一日後れたる為、日曜
 大に遅れ、二十九日ロンドン港(クリスマス、日曜、その
 翌日公休日の為)、ハンブルグ着は正月四日と考
 る見込と聞き大に迷惑なり。既定の文に元日に
 ハンブルグに着く方法、アントワープより陸路船を
 赴く方法等考へたれど、大荷物と親類の關係上
 大入り四日ハンブルグ着が無難なりと考へ
 之の方針を取ることを。伯林君の復るハ心苦
 しけれど、改め方おしと諦む。
 予等香椎丸乗客、一ツちあつてはBritish
 Museumに赴く。三十二年の月見たる並と大
 差はなき。著しく陳品増加し居り。その豊富なる
 は驚歎せり。東洋方面は比較の貧乏なり、
 支那トルクスタン、印度は見るべきもの少からず。
 日本、支那の言ふは足らざる所あるもの、とあり。

一行ハ全部通電するに及、多して疲勞さ
 覺へ、午の二時ホテルを去り、茶を休めて茶
 を取り、對して日暮の疾風が吹く。

今日香椎丸の残に置たる日本酒を取り寄せ
 としたるに、酒類(外國より持來る)を持てこ
 とは非常なハ急ぎ、多量の注文は必ず受つてこれを
 検査してアルコールの含有量を調べ、その量に
 従て重税を課するにつき、面倒ある予報を要
 するのとは、結局税務に終ると思ふので、取寄せる
 ことは止めたが、三浦ホテルより香椎丸の日本酒
 を寄送されたり。

夕刻高橋武雄氏(三井銀行のManager)
 東洋氏の實業ハ米波ありといひ、世間ハ度にな
 ず、秋のあり。氏は二十五日昼食の來れと招
 待さるより承諾す。

夕食は飯田と東方文化学院の人々、學院
 館東の運命等と就て會合と夜は静

十二月二十三日(木)

今日は暖房バスで市内見物、預定ル
 ハ早朝五度を個ハ手、飯田、我、吾、及、
 同富の日本人合計五名でTaxiにてThames
 Cook社に赴き、九時四十分Busに乗つて出く、
 Busは赤塗の大車にて長さ三百メートル、定員
 四十人許り、廣々としたもの、同行ハ予の一行
 の外何あり者と知れぬ紅毛眼鏡の外國人
 五名、案内者一名、括めて數人なり、Bus
 是ノ北行、市の中心の街路を走るがguide
 は括めて周到懇切に説明し、つづき
 市街建築を見るは軒並七層乃至四五層
 の前世紀のガレリとした構造様式にて建
 たるもの、日本の現代の洋館の如く、比し多

意欲ありし、又々 London の繁栄を期し、学術上有名ありしものを、英國の歴史館の一端を築き、英國人の気風を片断を呈せ得たる莫々室と絶交の機会を得た。この中より、今更 London を去るに何となく名残の惜み、若し必しも許さばば、せめて一ヶ月を此學に在りしと思ふなり。

一週を振うて、船室に入れば、室はその外、てきとよく建てられ、内部は、正しく、清潔、
船中の静寂、船中の静寂、静寂、静寂、静寂、
静寂、静寂、静寂、静寂、静寂、静寂、

倫敦の印象

- ① 現代と世界大國の實績は、備蓄され、防衛、
進歩の中心にあり。
- ② 建築と米田の現代の遺蹟を見る、Parliament の
如き、英國の歴史をたどる。英文化、Parliament の
歴史をたどる。英文化、Parliament の歴史をたどる。
- ③ この一方、Parliament の歴史をたどる。英文化、
の歴史をたどる。英文化、Parliament の歴史をたどる。
- ④ 凡そ、Parliament の歴史をたどる。英文化、
の歴史をたどる。英文化、Parliament の歴史をたどる。
- ⑤ 建築を見るに、英國の、その気風、Parliament の
歴史をたどる。英文化、Parliament の歴史をたどる。
- ⑥ 然るに、Parliament の歴史をたどる。英文化、
の歴史をたどる。英文化、Parliament の歴史をたどる。

を輸入し、増え、直に、Parliament の歴史をたどる。英文化、
の歴史をたどる。英文化、Parliament の歴史をたどる。

- ⑦ 要するに、英國の、その気風、Parliament の
歴史をたどる。英文化、Parliament の歴史をたどる。
- ⑧ 又、Parliament の歴史をたどる。英文化、
の歴史をたどる。英文化、Parliament の歴史をたどる。
- ⑨ 日本は如何。第一文化は、Parliament の
歴史をたどる。英文化、Parliament の歴史をたどる。

十一月二十日 (木)

朝は、Parliament の歴史をたどる。英文化、
の歴史をたどる。英文化、Parliament の歴史をたどる。

London の歴史をたどる。英文化、
の歴史をたどる。英文化、Parliament の歴史をたどる。

(2) 北緯 35° 30' 30" 東経 139° 45' 30"

本館は東京の中央に（北緯 35° 30' 30" 東経 139° 45' 30"）に位置し、明治十二年に建てられた。

本館は明治十二年に建てられた。本館は明治十二年に建てられた。

本館は明治十二年に建てられた。本館は明治十二年に建てられた。

1. 建築 本館は明治十二年に建てられた。本館は明治十二年に建てられた。

2. 建築 本館は明治十二年に建てられた。本館は明治十二年に建てられた。

3. 建築 本館は明治十二年に建てられた。本館は明治十二年に建てられた。

4. 建築 本館は明治十二年に建てられた。本館は明治十二年に建てられた。

5. 建築 本館は明治十二年に建てられた。本館は明治十二年に建てられた。

6. 建築 本館は明治十二年に建てられた。本館は明治十二年に建てられた。

7. 建築 本館は明治十二年に建てられた。本館は明治十二年に建てられた。

明治十二年一月一日

本館は明治十二年に建てられた。本館は明治十二年に建てられた。

本館は明治十二年に建てられた。本館は明治十二年に建てられた。

本館は明治十二年に建てられた。本館は明治十二年に建てられた。

本館は明治十二年に建てられた。本館は明治十二年に建てられた。

本館は明治十二年に建てられた。本館は明治十二年に建てられた。

本館は明治十二年に建てられた。本館は明治十二年に建てられた。

きたる有様あり、彼等ハ火事にて或ハ氷まてして船
を家として居るものあり、一年一もの
正月はこの位の骨休めは当然の事共あり、今日は
食事を彼等ノ開放し、船客等共何れも中
内ノ新装を食し、思ひよくつらぎて休息せり。

世界各地の寒気温(一丁二丁)表

サハリン東南部	33.0	巴里	12.00
孟買	27.0	東京	11.00
リゾットナイロ	22.0	倫敦	10.00
カイロ	22.0	仙台	8.00
ロンドン	20.0	スウェーデン	5.00
モスクワ	18.0	オスロ	5.00
羅馬	18.0	新嘉坡	5.00
コンスタンチノープル	14.0	ヘルシンキ	4.00
東京	14.0	新嘉坡北緯	0.00
北京	12.0	ヘルシンキ南緯	0.00

Antwerpの寒気温を測るに間に合たり。
彼等ハ五丁二丁の寒気温を測るに間に合たり。
見よ、彼等ハ寒気温を測るに間に合たり。
船客等共客を誘ひ、莫大の金を獲き上げ、
いよいよいよいよ、先着也。

正客乗客の数

Brunells: 十四人! 大乗客の他
Antwerp: 十四人! 飲酒客の他
Rotterdam: 四人 (見物客、船客)
Huy: 五人! (見物客、船客)

一月三日(月)

先キは船客にて起れる客客の他 (船客の他)
はしたり) 船客の他 (船客の他)
今日 Rotterdam 乃至 Huy の船客の他
即ち船客の他 (船客の他) 一行四人は Huy
の船客の他 (船客の他) 一行四人は Huy

の船客の他 (船客の他) 一行四人は Huy
の船客の他 (船客の他) 一行四人は Huy
の船客の他 (船客の他) 一行四人は Huy
の船客の他 (船客の他) 一行四人は Huy

の船客の他 (船客の他) 一行四人は Huy
の船客の他 (船客の他) 一行四人は Huy
の船客の他 (船客の他) 一行四人は Huy
の船客の他 (船客の他) 一行四人は Huy
の船客の他 (船客の他) 一行四人は Huy

の船客の他 (船客の他) 一行四人は Huy
の船客の他 (船客の他) 一行四人は Huy
の船客の他 (船客の他) 一行四人は Huy
の船客の他 (船客の他) 一行四人は Huy
の船客の他 (船客の他) 一行四人は Huy

走り出すや刻一刻と速きを加へ、最高時速155
Kilom.を達し、二時五十分を過ぎて午後五時三十分
285 軒を飛降りた。伯林 *Berlin* 市着。途中は連なる森林、渾身の力
樹林、點々たる中の民衆群は見るもの。都市らし
きは見えぬ。空の南極めをノビテした流走なり。

伯林に到着した。 *Insamiation* はより
氏 *北山氏* 大使館より神田二丁目地有外一、
二見 *北山氏* さん、北山氏さん、北山氏さん、
北山氏 は予と目録を同乗して、*Harmack Haus* である。この家は日
の学生全館と同一性質で、学費、餐料、家事
提供するものがある。設備万端よく、間、予の室は
一階一室、一室、浴室、洗面、を備へて、
この部屋代は一ヶ月、200マルクあり、
この室は別々設けられたが、狭き一室、*Bed*
置、小机を備へたもので、一ヶ月70マルクあり、
普通のマルクと比べれば、*北山氏* さん、
予の費用は13,5マルク、四方の小さな部屋、
備へた、*Kauf*、*Sofa*、*床*、*小机*、*小机*、
Kauf 室と称し、*Kauf* の小机、*床*、*小机*、
この食費、*北山氏* さん、*北山氏* さん、
北山氏 さん、*北山氏* さん、
予の費用は13,5マルク、四方の小さな部屋、
備へた、*Kauf*、*Sofa*、*床*、*小机*、
Kauf 室と称し、*Kauf* の小机、*床*、*小机*、
この食費、*北山氏* さん、*北山氏* さん、
北山氏 さん、*北山氏* さん、

北山氏 さん、*北山氏* さん、
予の費用は13,5マルク、四方の小さな部屋、
備へた、*Kauf*、*Sofa*、*床*、*小机*、
Kauf 室と称し、*Kauf* の小机、*床*、*小机*、
この食費、*北山氏* さん、*北山氏* さん、
北山氏 さん、*北山氏* さん、

- ① *Hiller* に対する国民の感情は大半は不満足
a. 滅亡の運命に對する国民の感情は不満足
b. 彼は歴史の進歩者として、彼がその歴史に對する
c. 彼の歴史の進歩は、その歴史の進歩に對する
② 彼の歴史の進歩は、その歴史の進歩に對する
③ 彼の歴史の進歩は、その歴史の進歩に對する
④ 彼の歴史の進歩は、その歴史の進歩に對する
⑤ 彼の歴史の進歩は、その歴史の進歩に對する
⑥ 彼の歴史の進歩は、その歴史の進歩に對する
⑦ 彼の歴史の進歩は、その歴史の進歩に對する
⑧ 彼の歴史の進歩は、その歴史の進歩に對する
⑨ 彼の歴史の進歩は、その歴史の進歩に對する
⑩ 彼の歴史の進歩は、その歴史の進歩に對する

予の費用は13,5マルク、四方の小さな部屋、
備へた、*Kauf*、*Sofa*、*床*、*小机*、
Kauf 室と称し、*Kauf* の小机、*床*、*小机*、
この食費、*北山氏* さん、*北山氏* さん、
北山氏 さん、*北山氏* さん、

一月七日 (金) 日

伯林長年の一役を担って *Harnack house* の
朝食を終りて通り会館の建築、設備、装飾
等を視察す。やがて二見考館を見終りて敷地一割
ばかりの通りを越えて二町先の停留所より地下
鉄に乗る。Münchener Platz (東北の角) 駅
停留所下車する。その傍に東京新橋と異板せらるる
新理道あり。一行は入りて二町先の日本館に各
日中食を摂りてあるが店主は日本人。
■。第3の地は地味二五ありと云ふあり。

手は庭の庭に味増すに及んで又は強うて
米飯を食ふ。美味に思はれども食ふは是る。第
三は一丸。50円。チーフ一割をカルにて二丸を
摂りて我が地二町あり。高き何れに計上を
を得ず。開け日本館客生は目下五十名位。
その他各才國の日本人通外五百人以上。四百名
子及人かと云ふ。これ等の入る多額が額定
たるに於て相宜に繁昌に成る様示あり。

食を終りて宿へ帰る。今日飯田は大使館
に近し。視察を遂ぐる上、多量の荷物の郵
送を伊を同様にしたるが、意外に荷物に傷
破して未だ到着せず。もしある荷物は大使館
の前のに於て伊等個人のものに於ては該館に於
てに搬入せらるべからざる事あり。手は是れを遺憾に
たり。昨日自ら大使館を訪ねて参観するに
なり。

今日の短ければ、宿に二夜は入る。飯田と獨
歩ある夕食を摂り、各日面への後者おと居り
て宿に就く。

一月八日 (土) 日

69

今日飯田はより二回参観の積累未だ、歡喜
に満ち見るは又一家無事の報、重宝家の伊の
持々実物の注文、昨今時年々の実業、扶康の消
息あり。くり返へし参観に謝す。

手は北山氏来訪。打ち連れて又大使館を訪
し。柳井氏も、昌谷、米田両氏も在り。面会、高橋つ
伊を参観す。宿館は *Hamburg* には伊氏の参観
は大使館に於て完結せしめ未だ到着せず。税
関にて或る種之の検査を受ける様子あり。は
伊の便法を講ずるに及んで候報なり。

吏より *Institut* に赴き *Hammer* 氏を視察
す。その地の所見と意見、所内陳設を一見。所長の報告
を通覧し。講義日程に就き相済す。元来予の政
務以て。日本側と密に密に講義日程目と打ち
合ふ。Berlin Universität にて大田産徳講義。
その他五六ヶ所の大学に大田講義の報告あり。
Institut には全般的 Program を知るに
す。無記したるが、少しの強さを講義に成らず。予
は少しの命令を如くして難く。取り引きを密に
打つたりの講義を成ることを決心せり。

Institut を参りて北山氏と都庵といふ日平
飯田と赴き会食す。都庵は東京府より美味と云
ふが宿館にて食料あり。北山氏と心ゆく語り流
をいつけたるが氏は *Institut* の組織、その経済狀
態、その事業等を説いて慷慨す。聞かざる *Luft*
たが人々は一二年又は一五年の期間に。その間三四
は四回位の講義を成し。その他は難問又は *Institut*
の発展策に關するを密に熟慮ありといふ。

吏より北山氏とベルリン第一の百貨店は赴き、多少の
買ひに夜に入りて宿に帰り。例の如く夜に参りて一割
ミグダ食を終りて宿に就く。

一月十六日(日) 快晴一強雨

早朝一雨降れぬり又強雨となり太陽神に
爽快あり、雪とけつぬきは若菜の生えそとて
美しく、板木も春の野草も出た初めなから思ふ
程あり。

朝食後書意さ心おちり散歩し、のびくと
休養を取る。食後の後品谷氏使島来訪、四ヶ
山の散歩も暇。寒ふて程中おる Veranda
に出こ、浮几の吹かれつ、散歩し、淡道夕食の
後は、多岐やら扇括やらを縫製し、夜更か
して寝る。

Hillier

1. Hillier、目下 Berlin の大規模を計画して、宣
省を以て大室の件にて宣付せしめつゝあり。
計画は年画にて Berlin の改定せんとするもの
あり、内容の方針は計算と発表されたものが、之を
是は Bauinspector が責任をもち、Hillier
直属の下へ大機関が設けられて居る。
2. Hillier は来大となりし経験より建築と興味を有
し自ら design をせし。目下 München、建築大
受命を聞儀なり、之を計して Hillier 自ら建築
演説を試み、建築文化を力説したり。
3. Nazi の労働団外建築は伯林、Leitold
Halle や 教堂等の如きもので雄大なる気魄を
て宣へば宣へるが何れも愛憎ある普通の Modern
式とは異なり外あり。
4. 二人の建築が何と国都であるか、これを以て
伯林の一色に塗りつぶされた、其れこそ大室で
あり、Hillier の真意は果に何ぞあるか不可知

一月十七日(月) 晴

77

午過ぎに訪れし Mark を受取る。夜更の
旧友早稲田の電報を出た。中尾氏、飯田と
意叶の遭遇と且つ雪と且つ春、又より一
三人、Jusztitz と行き、昼食を摂る。
お初、Marburg の大学教員、予の
講義を聞いて、打ち合ふことありて帰り、
中尾氏と帰る。

又より予は Marburg 講義用の英文の整理
と改訂し、飯田とて開張の文室の備へる
らしめたるが夜更に入て終了せず。即ち深夜
食後月を以て仕事に継続し夜更迄まで
かいて終る。

學能と多大の時間を費するは誠と困窮と
れは Jusstitz に通るある参考書を備へ置
かざるを得ず。文学、政治、経済等に關する
日本の書物は比較的確の参考書あり、文化史
一般史、無形學の方面は尚ほ貧乏あり。
此の百種神妙の英文に近きもの調査上甚
な不便あり、之を充實すること急務なりと
思ふ。

若し Jusstitz とハ、何とく取調べの爲め、
觀望の男女老若が至り閑散あり。可成り忙がし
そふれども是は難詰の爲め Jusstitz 年
来の根本問題なるを悩む。

1. Hillier の部下等は今日取調の種屋にて Hillier
を口占としてその後で有名な私録を添へる。陸
軍省中におる。Hillier は見て見ぬふりにて居
るといふ評判あり。要するに Hillier の種の如
く信ずるものは愚昧なる低級の民ありといふ
ことなる。野乙の前途は危し。

一月二十五日(火)

今日は晴れ、一日晴れ、風あり、太陽見えて
輝く。例朝、*Sancti Spiritus* 聖霊を主とす、
大使館の区外書記官より電話あり。曰く

「今東京外務省より電あり、明年アメリカの建築
と建築の大博覧会を開催するにつき日本より日
本館を遣うて出席する事とされるが、日本館
は純日本式の堂々たる美建築とする事より就
ては其の方面の最も適当なる建築家二名を
推薦して貰つて(伊東)は呉れとの事あり。明年
至急候補者を指定されたい……云々」

予は明日までこの問題に頭を悩ましておきて大
に数い泣いてある。

- ① 純日本建築の例は、住宅や社寺などは数
あるが、神社家は殆どが博覧会向きの人が無い。
- ② 博覧会向きの人は多いが、日本建築は道
人無し。
- ③ アメリカの博覧会へ出してアツトアツト位な
気魄のある偉大な作品を考案する人は今
や無い。
- ④ と言つて無いと断ることも出来ぬ。
- ⑤ 寧ろ日本建築の技巧に勝れた人よりは、博覧
会建築の理解ある胆王の太人を選ぶが
如し。

④ 然らば彫刻や絵画に人ありや?

予はつくつと日本の建築家の乏しさを感じた。
柏林のナチ建築ある航空宿舎 (*Luftschiff Land-
Hall*) は design として別荘と見えて、言ふ程で云く
と、少くとも何れもは粗大、贅腐な気魄は
ある。今年の日本館も大功は細道を脱せず
で、思ひ切つて気魄の強いものかよいと思ふ。直が
か日本に居るならば、一番乗り出して馳走、酒、
頭を振つて見たいといふ、異想に耽つた。

59

午食の後一仕事して夕刻迄の事。夕食は午
後八時あり *Hannover-Haus* 備えたる *Eckart*
氏の日本音楽の講演を聴く。聴衆堂々たる、知
識の人、大使館の柳井、島谷、島谷等々見たり。
Facetta 氏の挨拶あり、講演はなる。Eckart
氏は島谷の九大で工学で文芸講師として三年居り、
その殆ど一年を東京に在り、由りて日本流の巧み。
彼は音楽の歴史を暴走し、日本音楽の歴史を
その付束を説き、实例として *Record* 子と種々ある
教則を聴かせた。その中より、その運轉ハセ
はし。古い所では(楽譜)、重奏、一足飛びに能
、奏太鼓、舞内、一物して古来の中経、詩吟、狂歌、
浪曲師に至る。然る所、浪曲師を賞讃し
たるは可笑しかり。寛政の日本音楽を大に振う
の點は是に興多かり。

終つて別室にて講演會催され、*Facetta* や
Kimmell など一語、ビールを代りながら雑
談して午後十一時迄に及んで解散す。
是より都府に帰り一仕事して夜一時迄
就寝す。

一月二十六日(水)

今朝はしないかと思ひて *Sancti Spiritus* 聖霊を主
とす仕事す。午食大使館の柳井、島谷両氏、昨日
の島谷推薦の区詞を聞き来る。島谷大氏の候補
者を指名し、少時雑談の後別室にて夕刻迄の事
は、教室より音楽来る。正月の行事、越後遊園の
小供の食の盛況、その他朗らかなる春のおどけは
予は満腹なり。夕食は又には腹は減り、夜
への返信や知り人への音信やらで終つて夜
一時は又に就寝す。

Copyright 日本建築学会
 一月二十七日 (日) (4)

例刻起きて例刻 *Insolitude* ハ行く、正午迄は *Ramming* 氏に導かれて外務省を訪ね、文化部長 *S. I. I. I. I.* 氏及びその下僚の *Regation* *Rat* といふ奴の *Rat* 氏と會見して挨拶し、十時か同様の奴の *Insolitude* といふ奴へし最良の種二月二日の準備を決定せしが、中々面倒な事始とあくみ果つる位、然し予の健康迄どうもヤリ好良と少しは疲労を受へぬ事はありたるは、伯林の気候風土に慣れと同化したるためと、根性の強さによるあるべし。

今日銀田の言葉の奇癖、動物の星賀等を指摘して意見を述べられたら、それと翻論して然るべき場をしばしば彼は如何にも思ひ出し、顔面を不愉快なものでいつかの明朗さを知れ、お食後少しと引き上げて、自家に入りたり。

予は音楽をやり、菓正を食ふが、例の如く仕事は決定なし、深更に及んで寝る。

一月二十八日 (日) (5)

例の如く *Insolitude* ハ行く、午前正午頃まで行く、例の如くを授取る、偶々又中尾氏の通譯を、昨日通譯が同行を始す。

Insolitude といふ仕事中大使館の電報にて、二月一日迄に政府の大行馬の伯林等大使館まで運送の人々、大使館長が参加して、各官の説明環境を聴取するの事、是れ出席され、と申じ来る。二月二日の講義のため出席不能と断じて辞退す。倫敦の約二番より、日英協會の予の講義を聴取せしむるにつき、四月まで *London*

を主と爲りて一席辭せられたしと申じ来る。時百おれぱとて辞退す。

日英協會主催より出席を求め来る。辞退す。新より面会を求め、後日を約す。

午時クニと来たる青年面談を求め来訪す、引見にて見るに貧弱ある者あり、聞けば彼は舞踊家内家にて目下伯林の舞踊大學(?)にて研究に専り、学理と演技と精進に専るといふ。舞踊の演を一席目まで再会を約して去らしむ。

更より日没するまで仕事なし、病を癒る。例の如く食後深更まで夜をべして寝る。

一月二十九日 (日) (6)

例の如く *Insolitude* ハ行く、富貴軒に *Insolitude* といふ信あり、彼れは信を聴いて予の健康を祈る。

中尾氏中尾氏来訪、町中まで買物へ行く、これは予の人の経営する小店に於て原價の二割は送料にて受る由にて中尾氏の勤務されたるものなり。
味方 味方品はライカと云ふ、ライカは今日本に實用されず、電光コンタスが行はれる由、コンタスは電光品に於てライカより更に一歩進んだものにて、近頃は殆ど電光コンタスを買ふといふ。取手の中尾も、二足中尾迄を引寄せ居る。因て予もコンタスを買ふ。但し附屬品を見ればその知を發揮し難きより、全部見へんとせし中、望遠レンズは五目で、五枚のレンズ、廣角に二枚と急角に一枚といふ、因て *Kontameter* (精密望遠)、*Sixtus* (生電望遠)、*Pictur* (三ツ(黄二緑一))、*Sonnenblende* (レンズのフタ) を買ふ (レンズは持たぬは是れ諸君の、平に望遠レンズ)。

但し望遠望遠の *Reflex* *Korall* 用望遠に二枚は望遠といふ。中尾より *Rolliflex* のカメラを二枚と云ふ。中尾は望遠にして見ることをして引きた

午後二時 Institut の講義、中庭で其の食事と済ませ、再び仕事で忙しかる。習員は十数回交りて其の食事を終る。其の山内君といふのは京都府の出身で Institut の一員 (Mr. Rumpf) といふ、日本の有名学者、歴史、文学等に精通し日本熱心家たる男。片端よりこれを訂正し呉れたるは堪へられず、手は外へ出す文化東漸の國を作るべく、奮闘を誓して年々六時より勉強し、漢語、英語、数学、音楽、美術の才に。

一月三十日 (日) 南極館

今日は日曜で此の一日午迄まで寝床にあり、朝に食事を食ひ、食後の静養、漢語や通信をやして時を過す。三時頃より飯田は外に出かけ予は心ゆくまで休養して日を過す。食後は Brown 大佐 (本月十日) 漢語の原典を教へし。終に夜は十二時に就寝す。今日京師大使より便に書状して予に教意を教ふ。

一月三十一日 (月)

今朝予は十時より山内君と行き北山氏を会ひ、昨日の講演に關し打ち合せし。食を終えしより野乙人の日本觀の演説を聞いて面白し。是の原稿の執筆、構成用圖表の調製に耽り、六時より上りて宿に歸る。宿に歸りては用砂藏、是、ビスケット等を潤へし。夕食後又しより予は「オースタル」を演説し、飲むる飲る美味、又連中は來事の家を懐かし、思ふもの他の雜事を耽り、夜は十二時に就寝す。

二月一日 (火)

今日京都大使より書状を食ふ。その類で山内君にハ行くと、都合よく取上げたとある。午刻二見星が見えたので、午食を終えし、走から大室で仕事にかゝる。昨日の講演の準備である。北山氏、市同じく夜に入るまで仕事した。走から北山氏の意見を一つ都庵へ行く機会を試む。薪煙のつかりあるが、薪煙はあつてなかつた。北山氏は「薪を少し入れて……」など、注意した。走は、少しは軽らしい味方無いでは無い。食終つた後、中庭で茶を、牛肉のステーキで食ひ、雑煮を食ふ。中庭で食ひ終る後一見星を、又食ひ終る。一同食ひ終る後、茶を食ひ、走は雑煮の花を咲かす。予は夢の話を訊く。北山氏は宗教の話をし、影で夜更くる頃か上りて宿に歸る。宿に日本館は一両日本人のクラブで、こゝへ來たら最期、必ず敷時間は長めにめられる。社がよい人は禁物である。プアくして居る日本留學生は彼よりよいに決してゐるが、帰宿茶干地味にして難く。

野乙人の日本觀

野乙人の演説は今日日本を東國に思へり。日本は行きたる野乙人の演説は殊に野乙人の日本人を輕蔑し、それは往々日本に在りて、日本人が外人に對して必要に上り、故意を盡し或は諷刺を放ち、日本人の海外思慕を改むること必要あり。目下お蝶夫人來りて興行に在りしが、觀客は是を不満足、演説者の演説場にて、演説者の演説を不満足、天聲がチンチンと響き、演説者は不満足あり。大體演説がモット種族の、演説者と云い、大使等の日本より訓令を奉じて事終る。演説者は、一室を出でざる、演説あり。

十日目にして帰るんとする時 Sumner 氏觀
然として来る予の事を近御建前習察の¹²の
を告げざる、一、二の成り六時四十分に於て
予部を終る。氏は学業のあり深く東洋の
予の學歴を¹³に¹⁴一日中¹⁵中々よく
分るが、人物が少し¹⁶然¹⁷。又¹⁸徒¹⁹を²⁰失²¹き、
毎晩²²おて²³遊²⁴る。朝は午膳まで²⁵寐²⁶て居
ると²⁷始²⁸末²⁹、餘り³⁰せ³¹用³²る³³れ³⁴る³⁵は
惜³⁶い³⁷もの³⁸あり。

夜歸宿して夕食を終る。睡魔に³⁹う⁴⁰み
至る。暇に⁴¹て⁴²覺⁴³る⁴⁴れ⁴⁵る⁴⁶十一時⁴⁷あり。
ホストム一盞、一時⁴⁸を⁴⁹餘⁵⁰仕事⁵¹して⁵²見た⁵³か
矢張り寐む。即ち⁵⁴寝⁵⁵て⁵⁶就⁵⁷く。

二月六日(日)

朝起床に見れば、一天暗水張りて
片雲なく、日光輝きて春の如し。雪も⁵⁸着⁵⁹ぬ
東⁶⁰の⁶¹好⁶²天⁶³あり。ゆゑに休息する⁶⁴
は⁶⁵尚⁶⁶も⁶⁷好⁶⁸都合⁶⁹あり。

午刻⁷⁰友人⁷¹朝⁷²食⁷³を⁷⁴取⁷⁵り、自⁷⁶宅⁷⁷校⁷⁸の⁷⁹入⁸⁰居⁸¹
その⁸²他⁸³の⁸⁴友⁸⁵人⁸⁶を⁸⁷招⁸⁸き⁸⁹、⁹⁰酒⁹¹を⁹²飲⁹³み⁹⁴て⁹⁵財⁹⁶を⁹⁷持⁹⁸て
又⁹⁹々¹⁰⁰と¹⁰¹遊¹⁰²遊¹⁰³を¹⁰⁴試¹⁰⁵し¹⁰⁶、¹⁰⁷徒¹⁰⁸を¹⁰⁹費¹¹⁰す。
凡¹¹¹の¹¹²見¹¹³聞¹¹⁴は¹¹⁵何¹¹⁶と¹¹⁷も¹¹⁸中¹¹⁹に¹²⁰地¹²¹味¹²²く、¹²³よく¹²⁴の¹²⁵味¹²⁶
を¹²⁷感¹²⁸ず¹²⁹る¹³⁰事¹³¹な¹³²り。試¹³³る¹³⁴氣¹³⁵も¹³⁶な¹³⁷し。

(予ページより) 凡¹³⁸の¹³⁹見¹⁴⁰聞¹⁴¹は¹⁴²何¹⁴³と¹⁴⁴も¹⁴⁵中¹⁴⁶に¹⁴⁷地¹⁴⁸味¹⁴⁹く、¹⁵⁰よく¹⁵¹の¹⁵²味¹⁵³
を¹⁵⁴感¹⁵⁵ず¹⁵⁶る¹⁵⁷事¹⁵⁸な¹⁵⁹り。試¹⁶⁰る¹⁶¹氣¹⁶²も¹⁶³な¹⁶⁴し。

雪¹⁶⁵も¹⁶⁶着¹⁶⁷ぬ¹⁶⁸東¹⁶⁹の¹⁷⁰好¹⁷¹天¹⁷²あり。ゆゑに休息する¹⁷³
は¹⁷⁴尚¹⁷⁵も¹⁷⁶好¹⁷⁷都合¹⁷⁸あり。
午刻¹⁷⁹友人¹⁸⁰朝¹⁸¹食¹⁸²を¹⁸³取¹⁸⁴り、自¹⁸⁵宅¹⁸⁶校¹⁸⁷の¹⁸⁸入¹⁸⁹居¹⁹⁰
その¹⁹¹他¹⁹²の¹⁹³友¹⁹⁴人¹⁹⁵を¹⁹⁶招¹⁹⁷き¹⁹⁸、¹⁹⁹酒²⁰⁰を²⁰¹飲²⁰²み²⁰³て²⁰⁴財²⁰⁵を²⁰⁶持²⁰⁷て
又²⁰⁸々²⁰⁹と²¹⁰遊²¹¹遊²¹²を²¹³試²¹⁴し²¹⁵、²¹⁶徒²¹⁷を²¹⁸費²¹⁹す。
凡²²⁰の²²¹見²²²聞²²³は²²⁴何²²⁵と²²⁶も²²⁷中²²⁸に²²⁹地²³⁰味²³¹く、²³²よく²³³の²³⁴味²³⁵
を²³⁶感²³⁷ず²³⁸る²³⁹事²⁴⁰な²⁴¹り。試²⁴²る²⁴³氣²⁴⁴も²⁴⁵な²⁴⁶し。

心ゆく²⁴⁷中²⁴⁸に²⁴⁹休²⁵⁰養²⁵¹を²⁵²て²⁵³夜²⁵⁴は²⁵⁵入²⁵⁶り、食²⁵⁷膳²⁵⁸す²⁵⁹こ²⁶⁰
境²⁶¹中²⁶²を²⁶³ま²⁶⁴して²⁶⁵定²⁶⁶制²⁶⁷度²⁶⁸に²⁶⁹就²⁷⁰く。

三月七日(月)

例²⁷¹の²⁷²如²⁷³く²⁷⁴登²⁷⁵り、予²⁷⁶は²⁷⁷見²⁷⁸出²⁷⁹る²⁸⁰。結²⁸¹果²⁸²の²⁸³得²⁸⁴の
箱²⁸⁵一²⁸⁶升²⁸⁷ビ²⁸⁸ン²⁸⁹一²⁹⁰中²⁹¹を²⁹²持²⁹³り²⁹⁴歸²⁹⁵る²⁹⁶。我²⁹⁷園²⁹⁸を²⁹⁹つ³⁰⁰が³⁰¹て
来³⁰²た³⁰³一³⁰⁴升³⁰⁵ビ³⁰⁶ン³⁰⁷十³⁰⁸二³⁰⁹本³¹⁰を³¹¹持³¹²て³¹³歸³¹⁴して³¹⁵居³¹⁶る³¹⁷で、³¹⁸箱³¹⁹は³²⁰
上³²¹に³²²ビ³²³ン³²⁴一³²⁵中³²⁶、今³²⁷二³²⁸見³²⁹出³³⁰る³³¹人³³²の³³³一³³⁴中³³⁵に³³⁶
一³³⁷中³³⁸を³³⁹持³⁴⁰つた³⁴¹の³⁴²で³⁴³ある。

予³⁴⁴は³⁴⁵見³⁴⁶出³⁴⁷る³⁴⁸。結³⁴⁹果³⁵⁰の³⁵¹得³⁵²の
箱³⁵³一³⁵⁴升³⁵⁵ビ³⁵⁶ン³⁵⁷一³⁵⁸中³⁵⁹を³⁶⁰持³⁶¹り³⁶²歸³⁶³る³⁶⁴。我³⁶⁵園³⁶⁶を³⁶⁷つ³⁶⁸が³⁶⁹て
来³⁷⁰た³⁷¹一³⁷²升³⁷³ビ³⁷⁴ン³⁷⁵十³⁷⁶二³⁷⁷本³⁷⁸を³⁷⁹持³⁸⁰て³⁸¹歸³⁸²して³⁸³居³⁸⁴る³⁸⁵で、³⁸⁶箱³⁸⁷は³⁸⁸
上³⁸⁹に³⁹⁰ビ³⁹¹ン³⁹²一³⁹³中³⁹⁴、今³⁹⁵二³⁹⁶見³⁹⁷出³⁹⁸る³⁹⁹人⁴⁰⁰の⁴⁰¹一⁴⁰²中⁴⁰³に⁴⁰⁴
一⁴⁰⁵中⁴⁰⁶を⁴⁰⁷持⁴⁰⁸つた⁴⁰⁹の⁴¹⁰で⁴¹¹ある。

予⁴¹²は⁴¹³見⁴¹⁴出⁴¹⁵る⁴¹⁶。結⁴¹⁷果⁴¹⁸の⁴¹⁹得⁴²⁰の
箱⁴²¹一⁴²²升⁴²³ビ⁴²⁴ン⁴²⁵一⁴²⁶中⁴²⁷を⁴²⁸持⁴²⁹り⁴³⁰歸⁴³¹る⁴³²。我⁴³³園⁴³⁴を⁴³⁵つ⁴³⁶が⁴³⁷て
来⁴³⁸た⁴³⁹一⁴⁴⁰升⁴⁴¹ビ⁴⁴²ン⁴⁴³十⁴⁴⁴二⁴⁴⁵本⁴⁴⁶を⁴⁴⁷持⁴⁴⁸て⁴⁴⁹歸⁴⁵⁰して⁴⁵¹居⁴⁵²る⁴⁵³で、⁴⁵⁴箱⁴⁵⁵は⁴⁵⁶
上⁴⁵⁷に⁴⁵⁸ビ⁴⁵⁹ン⁴⁶⁰一⁴⁶¹中⁴⁶²、今⁴⁶³二⁴⁶⁴見⁴⁶⁵出⁴⁶⁶る⁴⁶⁷人⁴⁶⁸の⁴⁶⁹一⁴⁷⁰中⁴⁷¹に⁴⁷²
一⁴⁷³中⁴⁷⁴を⁴⁷⁵持⁴⁷⁶つた⁴⁷⁷の⁴⁷⁸で⁴⁷⁹ある。

予⁴⁸⁰は⁴⁸¹見⁴⁸²出⁴⁸³る⁴⁸⁴。結⁴⁸⁵果⁴⁸⁶の⁴⁸⁷得⁴⁸⁸の
箱⁴⁸⁹一⁴⁹⁰升⁴⁹¹ビ⁴⁹²ン⁴⁹³一⁴⁹⁴中⁴⁹⁵を⁴⁹⁶持⁴⁹⁷り⁴⁹⁸歸⁴⁹⁹る⁵⁰⁰。我⁵⁰¹園⁵⁰²を⁵⁰³つ⁵⁰⁴が⁵⁰⁵て
来⁵⁰⁶た⁵⁰⁷一⁵⁰⁸升⁵⁰⁹ビ⁵¹⁰ン⁵¹¹十⁵¹²二⁵¹³本⁵¹⁴を⁵¹⁵持⁵¹⁶て⁵¹⁷歸⁵¹⁸して⁵¹⁹居⁵²⁰る⁵²¹で、⁵²²箱⁵²³は⁵²⁴
上⁵²⁵に⁵²⁶ビ⁵²⁷ン⁵²⁸一⁵²⁹中⁵³⁰、今⁵³¹二⁵³²見⁵³³出⁵³⁴る⁵³⁵人⁵³⁶の⁵³⁷一⁵³⁸中⁵³⁹に⁵⁴⁰
一⁵⁴¹中⁵⁴²を⁵⁴³持⁵⁴⁴つた⁵⁴⁵の⁵⁴⁶で⁵⁴⁷ある。

予⁵⁴⁸は⁵⁴⁹見⁵⁵⁰出⁵⁵¹る⁵⁵²。結⁵⁵³果⁵⁵⁴の⁵⁵⁵得⁵⁵⁶の
箱⁵⁵⁷一⁵⁵⁸升⁵⁵⁹ビ⁵⁶⁰ン⁵⁶¹一⁵⁶²中⁵⁶³を⁵⁶⁴持⁵⁶⁵り⁵⁶⁶歸⁵⁶⁷る⁵⁶⁸。我⁵⁶⁹園⁵⁷⁰を⁵⁷¹つ⁵⁷²が⁵⁷³て
来⁵⁷⁴た⁵⁷⁵一⁵⁷⁶升⁵⁷⁷ビ⁵⁷⁸ン⁵⁷⁹十⁵⁸⁰二⁵⁸¹本⁵⁸²を⁵⁸³持⁵⁸⁴て⁵⁸⁵歸⁵⁸⁶して⁵⁸⁷居⁵⁸⁸る⁵⁸⁹で、⁵⁹⁰箱⁵⁹¹は⁵⁹²
上⁵⁹³に⁵⁹⁴ビ⁵⁹⁵ン⁵⁹⁶一⁵⁹⁷中⁵⁹⁸、今⁵⁹⁹二⁶⁰⁰見⁶⁰¹出⁶⁰²る⁶⁰³人⁶⁰⁴の⁶⁰⁵一⁶⁰⁶中⁶⁰⁷に⁶⁰⁸
一⁶⁰⁹中⁶¹⁰を⁶¹¹持⁶¹²つた⁶¹³の⁶¹⁴で⁶¹⁵ある。

此⁶¹⁶等⁶¹⁷の⁶¹⁸取⁶¹⁹扱⁶²⁰は⁶²¹実⁶²²用⁶²³的⁶²⁴で⁶²⁵よい⁶²⁶から⁶²⁷であ⁶²⁸る。但⁶²⁹し⁶³⁰は⁶³¹実⁶³²用⁶³³
の⁶³⁴邊⁶³⁵り⁶³⁶に⁶³⁷は⁶³⁸何⁶³⁹も⁶⁴⁰な⁶⁴¹い⁶⁴²。学⁶⁴³問⁶⁴⁴で⁶⁴⁵も、右⁶⁴⁶左⁶⁴⁷へ
何⁶⁴⁸の⁶⁴⁹突⁶⁵⁰進⁶⁵¹も⁶⁵²な⁶⁵³い⁶⁵⁴で⁶⁵⁵あ⁶⁵⁶れ⁶⁵⁷ば⁶⁵⁸學⁶⁵⁹業⁶⁶⁰の⁶⁶¹進⁶⁶²歩⁶⁶³は⁶⁶⁴な⁶⁶⁵い⁶⁶⁶。此⁶⁶⁷が⁶⁶⁸野⁶⁶⁹蠻⁶⁷⁰
國⁶⁷¹で⁶⁷²な⁶⁷³い⁶⁷⁴て⁶⁷⁵何⁶⁷⁶で⁶⁷⁷あ⁶⁷⁸る。

予⁶⁷⁹は⁶⁸⁰見⁶⁸¹出⁶⁸²る⁶⁸³。結⁶⁸⁴果⁶⁸⁵の⁶⁸⁶得⁶⁸⁷の
箱⁶⁸⁸一⁶⁸⁹升⁶⁹⁰ビ⁶⁹¹ン⁶⁹²一⁶⁹³中⁶⁹⁴を⁶⁹⁵持⁶⁹⁶り⁶⁹⁷歸⁶⁹⁸る⁶⁹⁹。我⁷⁰⁰園⁷⁰¹を⁷⁰²つ⁷⁰³が⁷⁰⁴て
来⁷⁰⁵た⁷⁰⁶一⁷⁰⁷升⁷⁰⁸ビ⁷⁰⁹ン⁷¹⁰十⁷¹¹二⁷¹²本⁷¹³を⁷¹⁴持⁷¹⁵て⁷¹⁶歸⁷¹⁷して⁷¹⁸居⁷¹⁹る⁷²⁰で、⁷²¹箱⁷²²は⁷²³
上⁷²⁴に⁷²⁵ビ⁷²⁶ン⁷²⁷一⁷²⁸中⁷²⁹、今⁷³⁰二⁷³¹見⁷³²出⁷³³る⁷³⁴人⁷³⁵の⁷³⁶一⁷³⁷中⁷³⁸に⁷³⁹
一⁷⁴⁰中⁷⁴¹を⁷⁴²持⁷⁴³つた⁷⁴⁴の⁷⁴⁵で⁷⁴⁶ある。

二月八日(火)晴

キオネ正金銀を動かして Mark を受取り、途中買物して正午近く Markt に出る。Rammung は来る十一日 Keln まで講演予定と云ふ由を報告、Markburg の講演の事を出発せらる。

午時後園を管理する使女に結束に電灯のコンロスの附属煙道いすを渡取らし。予は来る十日又は十日の Meinhofen に行ける諸君の準備と波野上と夕刻に受取り、夕食の預引きをきき準備は足りあり。夕刻の迄半を歩て野に出く。

今日遊人散歩の歩調を観察も、その歩の時の呼吸の音の階層を合すると飯田は直に男女で一歩は我が、速力は一時一重半乃至一重四分の三位。即ち人の身長は五尺二寸、六尺位は少し珍らしい。程々六尺五寸位

うちの中あり。かと思へば五尺五寸二寸の中珍らしい。女子は五尺六寸七寸はあり。よく肥へたるもの多く、巨漢は如何に内輪は見ても三十歳以上で、日中の南方取りあては到底及びかつある。予等は餘り小さいのでよく注目されるのである。外人人であるが殆どはよいのである。今日寒気は加はる。

二月九日(水)

例の如く Landgut に行き昨日 Bonn 行きの準備を完成す。午時北山氏 Dresden 上り降り、更々此の町を合せを申し、この日の Markburg の失敗を反省する。お天の注意を測り、より来るまで理解して中バツとした気があり、宿より降りて食料又一と云う仕事に、昨日の荷揚げを終つて腹が軽く。

北山氏の伝説(後)

十二因縁	動機	最善の事	最善の事
1 無罪	泥汚	最善の事	最善の事
2 行	泥汚	最善の事	最善の事
3 論	泥汚	最善の事	最善の事
4 名色	泥汚	最善の事	最善の事
5 解	泥汚	最善の事	最善の事
6 受	泥汚	最善の事	最善の事
7 愛	泥汚	最善の事	最善の事
8 取	泥汚	最善の事	最善の事
9 有	泥汚	最善の事	最善の事
10 生	泥汚	最善の事	最善の事
11 老	泥汚	最善の事	最善の事
12 死	泥汚	最善の事	最善の事

一異断常

生成去来

Bonn 2
Beethoven の家
を訪ねて一談録

芳花生
名園集
傳場聖凡

Beethoven 氏
Beet = 花園
Hoven, Hofen = 庭
の合成

例の如く朝 Institut に赴き仕事から午後
午刻 Hamburg の江戸録録を来訪、来る25
日 Hamburg まで講演の翌日ハーゲンベッ
動物園に並行寄り日本島の design を見て
格賞されたこと、同日午後を偲ぶこと、
集合されしと述べて去る。飯田大使館
に行き大工組合より Hiltel に贈る品物を
届けたり。

Rammung 氏来り。München の講演は
三月十一日決定することと決す。又よう又
一とより仕事がある。三月八日の講演資料
として飛鳥文政の原流図表を新作する
飯田と準備中である。

日暮後帰宿、食後飯田は Bälz (日本に
深く影響を及ぼす) の "日本を見る鏡" と題す
る講演を聴きにゆく。予はかくたがれて面倒
あれば宿に残りて休息す。十時過ぎ飯田帰る。
講演の内容如何と概ね同様に、よく聞か
しむる事あり。趣き終り就く。家へ宿を宿す。

二月十六日(水)

朝永に家より宿を新め、今まで宿の朝永の
旅の自由及び旅のあり、くまなく通して旅に就く。
Institut に行く。日暮後宿の主人田中氏来り
今の仕事に際して種々相済す。予は其の考案
有望あるべき事多き宿の経営に困難あること
預うと知る。午後 Bälz 氏来り。種々日本
に關する雑談を交換す。日暮より文々を日中
飯を食ふべく新庵に打ち定食を命ず。クマ
は立外れで来飯大は諸講あり。恰々外国
語学校 (Ausland Hochschule) の村岡
師来会。日本語教授法やの学生の題題

振やり、是れから工事に預け込に。食後宿
に歸るに、寒風を襲ふて寒し。今時仕事
で早く寝る就く。

二月十七日(木)

朝 Institut に行く。第一理髪店にて髪を
剃らむ。便談25円。は安し。但し髪を洗ひ、
油をツケ、香水をふくはは、是れくの代償を
要す。髪をうう時間は約五六分あり。

Institut に至れば環球演習記者とい
はるこの生徒来訪。予は種々の教へをこれ予
の文献集を示して教示すること。此人
は喜びて去る。是より飛鳥藝術の資料を
羅ひ没収し。日暮家へ歸りて食は少憩。是
れより北山氏歸宿を聞きて友松氏に便
費を認め、おは雜件を處理して渡す就く。

今夜宿の女 Bayer 尻袋を襲ふてハレギ
居るを見て興あり。Karnaval の準備あり。
寒風で中々嬌態で中あり。実を愛ふ中あり。

二月十八日(金) 晴

例刻 Institut に行き仕事で就く。午刻
二見来訪。同席に就いて厚紙の、一冊を寄
ぎに贈る。飯田君をよき趣き撮影の引当
しを便取ら果す。成績好成績あり。

夕刻帰宿、食後飯田は近所の活動写真
見物に出かけ。予は宿に歸りて少刻うた寝す
十一時頃飯田帰る。是れ何ふしやと問へど
便談を得ず。只が少く解る處あり相面
白かりてあり。是より文々は時事漫話を種々
趣き通ひて就寝す。近頃便通乏少あり。
大使硬化して困る。食後品々運動不足の爲か
みいかりす。

二月十九日(土) 晴

十時から朝寝して快晴の日光に浴し、午近き頃
Amelited へ行き直り仕事と云うかいる。
 午食は北山氏と明治神宮の恩恵界より銀座の
 彼の豪傑様達とすはすは、長時を費す。又、又
 又仕事に没頭し日暮後帰宅。夕食の後飯田
 の將來の處世から職業から修養等と就て見か
 へる意見を述べ、彼の頑固な愛憎性を有すること
 を導いて自省を要する。 (今更相議委員より休養来る。)
 夜あべの若干の調べたり原稿をどしどしおぼし
 夜半過ぎ就寝す。

二月二十日(日) 晴

今日は出来るだけ休養せんとの決意で、午
 後一時まで就寝す。いづれを押しどき下女来ら
 ざれば、自ら湯を作り、ボストンで貯へる黒パンを
 食ふ。下女等も日曜は休養し、客も殆ど外
 出する。市氏は一斉に或は教会へ行き、
 或は郊外散歩に或は送親と會合と云ふ。午
 後 *Hillel* の放逐あり。滿洲國承認を声明
 あり。予は直捷にハハ開きあり。

無量人園 都ては美人と云ふ可なり。
 後朝以来未だ嘗て美人といふものをせず。相
 ねて掃き上る美人を交す。美人といふもの
 殆んど縁てハハ開き園の部類あり。中にはゴ
 ンツして男子と区別するものあり。園の下
 層然たるあり。大多數は先づ女教養か、山や種
 かといふなり。しあやかとて愛しい女は皆然
 あり。園か大体の亭主は女房の魔に執られて居
 るといふ。但し米園流の格好ある女人事教の
 随伴はなし。

今日順工を面白からず。聴應ふはさうがれは
 又して聴眠を貪りて趣き入に覺れ。食
 下りて飯田と夕食を登り、食後は日曜の仕
 事代り心ゆく半日雑談政説を續し耽り
 て面白し。

飯田は今日外出して *Stahlembach* の古蹟を
 見学あり。如何ありしやと問へば、*Stahlembach* の古蹟
 の中にて感心すべきもの多しといふ。
 夜更ける頃より若干仕事や手紙を處理し
 就寝の例に由て夜半を過ぎたるも、今日一日は
 殆ど休養の目的を達し得たり。
 飯田君以来今日まで四十五日、即ち在野指定
 日野の半分を経過したれば、これよりいよいよ
 婦親の仕度と云うか取りとある。予は今日ま
 での仕事は突々として茂達あり。今更に奮発して失敗
 あることを期せざるべからず。北山氏に開きハ
 飯田の放逐あり。 (孫田、上野、大板、諸氏)
 皆諸君の力によりたるが、原稿は諸君と人か最悪
 極限に達する故に直に、衆音何れも宜しからず。
 愚は然るの一以上は諸君の人を分らず。或は予が
 いかんかといふ次第あり。日本論で議論し放逐
 されば全部の責任は諸君にあり。この点に於て予
 は敢て言ふ。は實明あり。

議會、Hillelの演説

二十二日は議會が開幕され、Hillelの演説が
 あるので大騒ぎあり。死すは窮軍全部を埋めた。
 Hillelは軍部が党と云うか会はぬのを憂へ、一
 両の軍部を改組し完全な愛の組織せしむ。首相
Neuwirth を罷めて日中伊和利の結合を謀れ、
 諸島地を再建し、滿洲國承認を由て日本を
 一掃の軍兵を導へたり。日中との関係は、昨今の
 仕事をすべし。グクして居る。世界の新聞ハ
 時化するおかしなり。

今朝又正金銀の題にて *Blank* の巻取
り、*Freidlichstrasse* を書き添えて君を冷かし
おとして *Inalitt* は至れが五年あり、二見君
既に来うて同表の仁あるの信がある。年が引
きつゝ仕事をつゞけ、夜寝る時わが故郷より
信あり、一家然るの報て古用と親戚の信を
封入せり。夕食後飯田は、今夜 *Johanna*
の催された講演を聴きに行きたるが、飯田の心
がけは甚だ鈍拙おれとて如何にも頭腦を凝
託して冷静沈黙の性格を欠き、且つ指端の無
知熱感あるまはるることを感あり。

今日が予餐の時(二見君) 日中新聞の飯田を
一読し、巻頭の報あり。飯田は「愚、セウ」とは何の
事であるか問ふ。予は二見君を果然として言ふ所を
大うあつた。飯田の問ひ、予は飯田の書く線
が全然意味を失つて居るやを指摘して「これ
はいかん」と注意すると、彼は得意して理屈を
ふらぬ理屈を並べ立てる。予は強かにううい、説いて
居るのを見て覺悟ある北山君は何か大笑して曰く
「伊東先生が飯田君を連れて来られた意味が
分るわかつたが、始めてわかつた」

予は苦笑を催したる。飯田はケロツとして感
嘆あきまひかし。此の種うことは実は日常茶飯
事である。これ以上の事はあは儀ありあるや
有る。

一と仕事に夜半顔のせむ。

例朝より早く *Imblich* へ赴き二見君と共に
同表の仕上がり後致す。

出版屋の主人東坊に来り、予の「支那運賃表解」
の出版の件をつゞ少断接し合ひて居る。予は
座右室社より予の著書2冊にて申じ来れる
由り、その内容を随手に染れるあり。

午後 *Forstle* 大軒東坊に、来る三月十一日
と共に *München* へ行くこと、その序に
は行き 3000 米の *Zugspitze* を究め、その如
くと登山のこと、それから *Bell* 島や九曜の
おでして帰る。彼は実々気軽にてしめる様
切ある好老翁あり。

日没する頃同表一と先づ完成せり。当然一
月を要すべき仕事を、二見君の手付ありて、僅
々十日は完了して完了せるは大努力あり。 *Imblich*
の連中が予の熱心ある勉勵振りを
驚歎し居れり。

又より教養の意味にて予は二見君と飯田とを
支那料理長表解の場、ゆるくと耽溺し居
る。料理の中々美味にて一同大満足せり。
十時過ぎ帰宅、飯田が巧く法に則して居る
幼稚な質問を答ふるの對に、懇切に教へたるに
彼は愚かつかぬ病を固執して居る。予は
文法と文章の相違を反覆して教へたるが容易
解せず。第一時々の漢字に湧く引きたり。予
は今更ながら彼の頭腦の支離あるを、理解力
の不足と、頭腦固執の甚しきを見て憤然して
歎息せり。彼は一言にして言へば頭腦の發達は
小児の程度あり。振舞受容すべき点ありて、
到底將來獨立して世を處ふこと難しむるべし。
如何にして今後彼を教導すべきか、予の重大
なる考案を要すべし。夜半飯田記。

三月二十五日(金)

早起今日Hamburg行の仕度と固め、
午後十一時宿を出て、正午Lederer氏と
二見君同乗を仕上げて駅に持ち来り。四時
三十二分乗車Hamburgに向ふ。途中農村の
風景を見るに農家は皆に矮小粗重なるや
がれど概して厚肉のやう。但し華貴木造の家
は殆ど見えず。吾等が()形ノ、少からず
見ゆ。引々赤松の林あるや多くは山毛榉、
榎などあり。Hamburgの少しさきかのLied-
lichhof、ここはスエーデンの領ありて彼の遺蹟
を収め、内庭の塔の中は鐘を置き置すと
聞えしが、勿論實地を見ることができず。午後
三時四十二分Hamburgに着す。此大學文
学部直並日本学研究室長 Gundert氏と接
面出迎へ来り。一行を数軒のHotelに取
内す。此處はHamburgの上陸せし際の
ホテルあり。

少時休息の後塔内へ案内され大學に赴き、
彼の研究室を見、Gundertの室を訪ひてい
活版の徒講堂を見せし間、塔内の方屋等が皆
朽す。講堂は僅に二百人を容れ小規模なるを
よく繕まり居り。是時Gundertの導かれて最
後塔に赴けば、奥なる若大講堂あり、その奥に
三人、塔内江口内、日本学研究室上層、三層有人。

Hamburgの漢字中同席の方二人、Ham-
burgへ行く商人あるベシ、子一行の案内方は
商人ですかと問ふ。商人と見られたるは此が初めて
あり。斯うは子も席外に出でると問ひ、彼の飯田の
人とはProfessorと云ふやと問ひ、然うと答へた
間、子と彼の子と對す。越え一室を可笑し。彼
Hamburg着の際、丁馬の子を扱扱として別室を
案内たり。彼が我が子として子のProfessorたるを
知るとは妙なり。

115
故に校長代理の歡迎の挨拶あり。茶事あり。
Gundert凡う長々しき歡迎の辭あり(約二十分を
越はしては多く長しき故に多き趣意あり。一併録る
逆説ある男として定評あり。夫婦は今日午の食事を二時
午後、從て日本法甚だ巧みなり、日本古典に精通せり)
註へ同席の善辭あり。Gundert氏通訳する中、彼
る子孫衆あり。七時食事を引上げHotelに歸れ
ば北山氏館も来る。飯田氏と交へて一行夕食を
認め、八時大學に赴き講堂を試む。

聴衆堂に満ち、後方は席外に立つちの多し。蓋し空
席の座ありと云。聞けば此の席は華氏の講演は、こ
の講堂よりも更に狭き講堂なるを聴衆に定長の予め
るも支那さうといふ。Gundertの周子の辭が何
由に十一分間、夫より何の如く北山氏の通訳にて便
と講演も、題は「支那建築」あり。九時十分を越す。

聴衆は皆感嘆の趣あり。聴衆は、その奥なる
大學校長、江ノ森氏、Florey氏、Jaeger氏(こ
れは神學の主任教授)その他約十人の教授、謂野、
Gundert氏、外人教授数人、在Hamburgの
日本人数人、此より、同會後で皆賓朋衆の
屬衆に聴衆は見居たり。

夫よりGundert氏に誘はれ、此の年の建築と云
の茶事へ赴く。この建築不意に近所趣味ありて
括めて面白。茶事する中日本人十人ほど二十餘
人ほどと云ふが聴衆の時を越し午後十二時の近
く散り引上げ、夜に就く。

今日の聴衆堂はFlorey氏の子と又孫のやうに
近き數人、皆く所へたるの族あり。彼は偉大講
堂として在日二十年。日本古典研究の同僚あり。
大正五年彼が此の講堂の本末、日本建築の
趣教するべき全路、彼の學功を以て賞答され
たりと云。彼は才氣あり、上四十年迄の消息を同
族、その死を聞て時然たり。彼年七十五、其族あり。

ふとを突いた。流石の一行は流石の
 時はまた早かれども食事はバヤとてバヤと東京
 館に赴き、ゆくと橋を渡りつて武野料理
 食ひつゝ閑談の時を暮す。

帰宿すれば九時あり。是より一生懸命の
 Münchenでこの庭園の権威の原稿を著し
 たが、元來語り深く研究に在るが故に中々
 了りず。推敲を苦心し流石に二時に至て
 眠る。

三月一日(火)

去る夜先陣矢の如く。二層を終つて今日
 は三月一日。モーニングで帰朝かと思ふ
 ついInstitutに出かけ庭園に閑する春を
 をあさる。座敷空出版のJapanese Garden
 田村剛、野矢梅之助の著書その他も少し
 あり。早速花摘むは流石に大に得る所あり。
 一気呵成に起稿す。

昼飯の隙に庭園の奇癖を解ふと踏踏
 して注意し拙力矯正せしめんと努力せしが、
 効果覺れず。彼は股を自ら止むの奇癖思
 解き當りたるが如き、腹を絞る矯正せし
 とする當否よく又當否ありとも如何ともし
 難きものなり。

例刻帰宿夕食の時偶然一日本人の刺
 き通す。是れは医学博士宮本瑞虎にて、宮本
 叔重の息なり。暮に入沢農より紙分状を
 貰ひ置きたる中面会の機ふれあり。予は
 大に喜ぶ。食事をしながらいろいろの話を聞か
 大に面白。彼はKaiser Wilhelm 大學にて
 医化学を研究し、その留学に在るが如き。人
 々よりHumeとHansとて誤解的(外人
 のため)誤解を蒙りて、宮本氏と誤りては

121
 漢堂に出かけ、予は自室に歸りて休息の時、大
 馬力をかけて原稿を著す。何れか、夜は流石
 二時迄に就く。

飯間は暫く眼を輝して「まさにはよく勉強
 する。夜は流石に著すもよく」と口癖のおまへは、
 予は「勉強は當然の事である。夜は流石に著す
 習つて勉強しては女に何と云へば、彼は何の奇
 癖を發揮して一種の(流石に著す)に大に笑ふ
 ありける。

三月二日(水)

昨日より毎朝飯田の新聞の見出しに新聞の
 要旨を矯正せしむる事と。ペン・ガー・ナ、チタ
 流の読み方を示すのと一々教示するの會予の毎朝の
 日課とする。とせり。

今日は終日Institutに在りて原稿を流石に
 定刻帰宿後少しづつ仕事あり。夜は流石に
 二時に至て就く。思へば、我よりよくも
 勉強のつづくことよ。よくも健康は支障をまね
 ことよ。(流石に著す)の心算なり。あるところ
 の日の版用を與へ力あるやと笑はれず。

宮本 瑞虎の事。

Kaiser Wilhelm 大學の研究生等の定例面目の勉強
 あり。彼等と勉強は一般の優秀と思はれず。又研究
 方針はよい可也。研究結果は若干不成功と成功とを
 同し、悉く整理して永く保存し置く。日本では不成功
 のものは捨てざるの欠点を有す。予成功の反占成の時
 は偉大の役を立つことあり。

予の医学は僅かに相當の進歩に在るが、医師
 は駄目なり。診療科、薬理の進歩を規程ありて名
 手も悪い報酬を得難き故、よい加減にして努力
 せざるが如きなり。

例刻 Institut に赴ける Ramming 氏、数日來の當り手樹候様とて登町より聞けば、進極の病に似、極めて大難症ある手樹の爲め一時非常なる苦痛を感ずるなりとぞ。進町の此星の爲め、Ramming 氏の腹痛の爲め不眠あり。

近頃町中の足腰甚れ不眠ありとて病者續々たつ。Institut 内の中次から次へと病人あり。Foster 氏も痛症を以て、Machida 氏より治すなり。何れも云はれ、飯田中時より頭痛を訴へ、寒寒を覺ゆといひ、アスピリンを服用し、更れに中々ロリとして時々成る元氣あり。予が毫も健康の異常を覺へざるは何れもかた合ふれど、少しも油断はあらず。

午後 Bonn 大學の Heidler 氏來訪、予が大に喜ばて歡楽少時、次で來東の大使館の最上階來り、予を招て大使館移居の敷地擴張を述べ、予が大使館は市政改正に引つかかりて立ち退きを命ぜられる事あり。至晩まで行て見るに政府の役人、直間政野等來居、極う度けて歡楽の夜を過す。

客居のラビ

猶乙人の身長は實に巨きとて、此上が身長にかならず、同時に五足の短靴が珍らからず、殊に背骨男が少々短は日光を食くこと少く曲る。被して日光不足より患疾は少からず。健康の如く見え、意外病はかゝる易き傾向を有す。

その癖早食嗜む部を好み、日光の直照を厭ひ、殊に夜は燈を觀むは可笑き癖あり。日本人が、朝まで見えて雲外踏む日光を、幾つ市販のペン、若くは家庭に引かして日光を如何に殺す、事務的で、この比較的日光不足を感ずる如し。

ヤがて、京師大使史島も來りて一同談を享め、敷地の通否を云々。予は意見を問ひ、既に、通否とは申し難して述べ、更し、已むよくんは影標、斯様の建築すべしとぞ。予は、何れ又予二の候補地を致すべしとて、一と更つ政議を引き上げ、一同大使館に引上げ、證會を招かす。これ移居の場合、我輩建築は現建築内の家具式を移す、此も都合上研究を要するあり。

大使館の建築は十年ぶりの新築にて、實に五千五百家具その他を要したるものにて、Plan は、此の座心せず、建築内外の design も少しの懸念を有す。此に案飾は出納目次のロココあり。併し先づ南立派にて、窓牖の良あり。殊に家具調度、中の整派あり。その敷路はゴランにて三龍内とて、最上等の椅子をゴラン座りて一脚三台ありとて、隨分身が不夫、病に似、思ふ。吾等の部屋を見るにその設備調度は、日本の中流以上の入り、坐敷と同格なるを覺べし。

大使史人、此の町中の建築家にて、永く日本の屋に、*de la Grande* の方ありとて、日本建築は巧み、その物としより宜しと見え、日本人のみの潤ふあり。しか中々如何なく相島の常識もある事あり。尤もよい史人あり。お嬢さんは合つておられ日本、六か、おと、四か、といふ分量の極あり。

是より大使館を辞し、娯楽、食後、少休息、夫れ、今夜は趣味を止め、雜子と日誌を二時をつづ、終に夜更過ぎ二時を至て寢に就く。

三月四日(金)

例刻 Institut に赴く。伯林工業大學出身の Müller といふ青年來訪、日本へ時常研究に往き、或きつて候望を賜はるに似、何れ、後日よく考へて再會すべしと云ひて帰らしむ。Ramming 氏と来る十八日、日露協會と日中

今日の朝大開演の講演会に臨むことを終
束し、夫より直ちにその日の原稿の編集を
練る。夕刻家に帰り、食料の如く原
稿に没頭し、夜更けに就寝す。

三月五日(土)

今朝始末の如く十時 Spangenberg 氏の
宅を Faberstrasse 2 訪ふ。平凡なる
小住宅ながら小ぢりばとした閑静な家。ス
氏夫妻は待て置けていそぐと出迎へ、満
面の喜色を以て書斎に請し、何呉れと申て
おしつ、四方山の話に打ち興じたり。予も心
あり嬉しくあり、おちくつろぎで一時石斗り
遊びたり。予は上座にして風呂敷にて玩具を
贈りたる。ス氏は嬉しうて大喜びあり。
ス氏は自ら男真宿中の、日中上座に笑ひ
たりといふ事、克己氏宛の、磁鉄の衝立
の厨子を止まらせる筈から、美木十蔵の画下
らを見せて品評を乞ひおとし、予は Hamo-
Ham には底心おきや、予自由体とやら、食料
は如何、時折日中食を食ふか、文筆がよ
いから尤も注意して身を大切に……おど
いしく親切な言ふて呉れられたり。

紀念にス氏夫婦と予を背べて飯田が撮
影し、ス氏と予と飯田を背べて夫人が撮影
し、又何回かおとどて影を呉れ、ス氏に
予の影の見へずあるまで見送る。ス氏は精
神の似合ひぬ温良の紳士にて人情の厚き
点、日本人に似たり。氏の日中にて極めて
懇ある待遇を受けたるより。斯乙と予
と對して多同様の待遇をなすべきを、左様
な事非ざるを見て心配にあらう。気色もあ
うて見らる。

より正金銀市に赴き Markt を取ら、今
日は土曜日で時間切れたるは閑や。予
特に取并らぬ呉れたるあり。大々賑わして
より Friedlins Strasse, Potsdamer Str.
を歩かしおがり土産の買物と補充。その品
々は、(一) ハンドバグ 二個、これは一番難題
にて思、此はきき無かりし、おしおとて買ひ取り
たり。(二) オペラグラス入れ、(三) Hattensack
のち温、包、温色を計る道具、(四) 四色鉛筆
(五) タグツ 五つ (六) 小刀大を鉄一錠あり。
日はまだ暑けれどおちとぬれたれば、予は品々
後日お返し、より買物とて赴きて 都方お返
文し、家に帰る。

東京より後者より(二月十日)一同無事な
ス、ス氏の手紙ハノツナ上予はあつたを嬉し
く食糧少休の頃おのれく原稿を添へ、夜半
就寝に就く。

三月六日(日)

急かき朝寢して午前十一時朝食をせる。今日
はハンビツに暮さばやとて、先づ時を漫画、次は
色紙に紙を揮毫し、久し振りに流語をいへ
長くふりし喜の日も暮れ、いそぐ。外出せる飯田
と帰るを待ちて夕食し、少憩の後又して本原

予の

斯乙の一時日本軍とは日本の二重とあるは
五十年前、外國陸軍学校にて教はうに勤めあり。日
本研究家の小使 Taining ハ身長 1.8^m (五尺九寸)
おちか長身の方あるが、彼は一時 7^K (一里七寸七)
と歩かといふ。即ち一時 7^K (一里七寸七) の速
力とある。蓋し斯乙人の普通の速力あり。日本人
普通の歩速毎時五^K (一里九寸) あり。妙速
ハ 7^K 即ち四尺六寸あり。彼等の速力大知るべし。

福子殿に於て又夜半に至りて快よく寝
死く。

三月七日(月)

朝 Institut に赴き、参事等を調べ、
こに来る十日の講演の原稿を完了し、
これと一先づ講演関係の仕事を終り、
身軽になつた心地あり。

既日の講演は持つて行く資料を全部
揃ひこの方々安心の体あり。

午後四時経典の如く大使館の品物運送
手形を携へて大使館の連れ行く、折々は伯
林市の建築家の道中既に来た。大使館と
大使館敷地の問題はつぎ依頼中あり、今
度の候補地は前回より遙かに優れるが
先づ第一座敷を見に呉れと言はるゝ、
品物運送の案内は建築家一同、大使館人
連れ立ちて現狀を視察す。現場は
敷地の直前立ち並び、何れも相与の規模
あるが史事は一つを致うと取り壊して大
使館の敷地とするといふ。座敷手荒い仕
事の様あり。これ即ちヒットラーが労働者
の職業を占める政策あり。取壊しの費用は
市民の協より採取する税金で賄ふこと
あるが結局有産者の金を無産者が占めること
である。敷地は先づ申し附けられ、こゝに
決定するべしと愚言して置きたるが、只な
心配あるは建築家が新案を引き受ける
と言ふが如何なるものかと言ふことなり。
現在の大使館と同式同規模のものを造つて
進すべしと言ふが如何なり。予は様式は
如何と雖も純然と従てよく何れも日本趣
味を漂はすが宜しかうと愚言するが如何

127
あるべきか疑はし。庭園も我が日本趣味
を加へ然るべく、室の plan も大に考慮する
可然と忠告する。若し設計を予に一任すと
あれば擬して引き受けて思ふからぬと、何
分非常な急ぐ仕事なる由を述べたが、
遂に決意する。ナチス流の面白かりぬ建築と
あるを拒まずと思ふ。

品物運送、予の帰朝の際先宛せしむべき荷物は
既に大使館より外務省に送る中として、税
關の海關を免れ直して頼みたる。品物運
送は前例なき事計ることには出来ずと思
ふと言はる。予は茲に既て大使館を築めば
大使館が決めた位の便宜を占へ呉れて可なり
と云ふ事と思ふ。

夕刻家へ帰り、食事はノンビリとして飯田と
話して眠り、信實、漫画、日誌など夜
更にしていつしか夜半となり、寝て寐む。

三月八日(火)

例の如く Institut に赴き、今度の講演の
準備を手荒く調べ、午後四時會議の場
所、方法を定む。午後、館長等と指示の
工合を考へて都合よく推測を終り、一旦箱を
夕食を済ませて七時四十五分會議に入る。正八
時の開會するといふ通を告げたり。

告を出して答へ

地方にはナチス黨派の反感を有するもの不少、され
ば嚴罰を怖れて言行の現わさず。或る日本人某
が官務を勤ふ一団の市民側のハイトラー
を行つて、告を出したるを見てその故を問ふ。答
へて曰く。吾人は已むを得ずハイトラーを行つ
た。誰か心よりヒットラーを礼讃せんや。告を出
して現れ心中の鬱鬱を洩らすこと。

（3月）
 森立不動の姿勢で立つところ絶然不動で如く彫刻物の如くあるのは感心なり（800戦に當り築成）。
 又より *Haus der deutschen Kunst* を見る。森立の建物は正真正正に列強の威風凛々たるものあり、然るに内に入ると見れば、ずばりとして材料も意もあらず。形も意もなくあり。外観は固い、内装は重々しく、いかに主観をもちきりしものか。飾り装飾あり。陳列物の大分数は建築の定外間、設置あり。Hilke 宣説の中のみで、例の調子のやうな、一向に感心と感動、只だ規模の思ひ切れた大さな形式の響くは足る、此等が Hilke 式の特色なり。土木では *St. Peter* の橋の design が指眼の的のやうあり。橋の長さは 100 呎、橋塔の高さは 60 呎、桁のせいでその又高さはその中の電車を通る位あり。米国のこの類の橋の有難いと思ふが、欧土の唯一と云べし。

家具類は一ツも確かなものなし。彫、色、装飾等、一ツも調和とていふものなし。要するに今の *St. Peter* の建築された美術は拙い。無機文化の方向よく調和が、藝術は駄目なり。然るにこの一ツの面白からず。館の壁は Hilke の意を汲み取り、曰く

*Kein Volk lebt länger als die
 Indument seines Kulturs.*

今月三時歸宿。北山と飯田の森は外山より城に
 来る十八日清成の原野（この *Reinholden* の原野を
 多少修補して用ゐる）を歩いた。

夕刻北山、飯田歸り、官舎難波の歌。

今日 *St. Peter* の開会が、新軍出で、内容は量と環境
 府のナチ党と反ナチ党とあり、今議會で反ナチ党多数で議決
 した見ゆ。Hilke は露西銀と軍隊を返して反ナチ党を
 威嚇するより、米の本格的な開会と進める中、事実上
 は開会より見ゆべし。新軍の進軍は *Deutsch-
 Österreich* と書かぬ。

城に入りて軍隊、青年團の *March* の大行進あり
 と申すき便りなり。城の西と東と西と東と。

素では *Parität* 及び *Jaarmark* は連日おきて
 言ふ所なり。予へ之を告げし時 *Berlin* は解さ
 たり。

三月十二日 (日)

意を頼願して予等と愛し、予等の母を *München*
 を出発一階の往來あり。歸路は *Nürnberg*
 を通る。途中より古川市街建築を眺め、
 平野を望み、一ツの高き山を越へて *Halle* に出
 て、こゝは北山 *Leipzig* は麓に別れ、一時
 は柏林と云ふ。

漢字中 *St. Peter* の暗黒陣境日本より軍兵ありとて
 怪しむるが平野を操りて注したるを興あり。中
 路は帰って食料問中より便りありとて、意を休
 む。

三月十四日 (日)

今朝 *Mediat* と云ふ *Schule* 女史は十八日
 の演説の二日を直説せし、それは一大事との事で、
 翌日文化の諸人を呼び、その結果、演説
 演説は到底予等能く決し、矢張り先の「*St. Peter*
 と新日本」とし、題目を足す日延期多くと云ふ
 事、何事かと思ふは、予等は是れに決し。

二見君来り、食食を共にして歸去せり。
 夕刻帰宿、願う合宜にあらす、*München* の城土
 の宴會までが業あらんか。いつか堅き壁ありと今日
 は腹を盡く軟便うしより、少量の軟便を便り、大
 大にこれより思ひ、腹は満腹とて書きて
 心氣を静め、矢張り城の西と東と西と東と、

三月十八日(土)

申すべく朝起きて *Insult* と云く、飯田屋敷
路は敷き、待合の注文の写真模を貰い来る。
二見君来る。来る廿一日のとき去りて、仏、髪、来を
後由、帰朝する由き来り、少時雖、去りて去る
留置所来る余を撮影す。

午後北山氏、飯田屋敷を終りて帰る。二
友林氏より「帰朝屋敷いふし」この電報を得た
りて雀躍して喜ぶ。予も大に喜心をこめ、推
うして出資の時節、在、日本、の期、日本、の
仕事、その準備等の後、二時、を移す。是より北
山氏を伴いて、D.W. 赴き、秋星、注文の品を
買ひ、これにて土産品は書籍の外、一切、備へ
一安心す。

是より一行御庵に赴き、久に振みて廻り、
さしか、所や、事、て、日、中、飯を食ふ。廻りて、
美味、を、非、ざる、を、わ、る、ふ、し、あ、か、わ、ら、す、日、中、人、の、
お、来、り、て、賑、やか、あ、う。散、歩、の、時、を、移、し、十、時、
す、雨、が、降、り、倒、り、女、く、雑、す、信、息、を、夜、を、更、に、
寂、し、さ、に、一、時、就、寝、す。

官費表按の譯語(月俸)

大臣(陸軍不明) 悉くは 20000 円位↑	
次長(正税)	5-6000 以上 10000 円
大府正税級	300-1000 円
郎部級	300-500 円
議員	150-300 円

Notes の党費、今、日、三百、圓、人、ナ、り、党、費、を、シ、テ、毎、月、
3 圓、に、納、む、即、ち、一、月、九、百、五、十、圓、一、等、の、
一、億、八、百、萬、圓、に、なる、。これ、が、當時、何、を、使用、する、
お、は、絶、對、に、明、か、り、。

137

三月十九日(土)

朝、被、星、の、食、膳、を、*Institut* と、赴、け、は、*Ram-*
ming 氏、*Garnish* 等、輝、り、来、り、。其、他、の、人、々、
も、。其、の、地、の、用、意、を、時、を、知、す。予、食、を、
北、山、氏、来、會、倒、り、女、く、雑、す、論、議、の、時、を、
憂、ふ。予、の、講、義、の、出版、の、件、も、つ、き、決、減、を、重、
め、。

今日午後三時、Börschmann の挨拶より、
同氏を訪ふ北山、飯田、同、伴、も、其、の、家、は、原、質、の、
三、階、有、る、が、相、當、り、寂、獨、有、り、。推、察、は、*「原、質、の、家、
に、て、」*、内、相、待、中、上、候、と、ある、は、可、笑、し、い、と、思、ひ、
が、す、て、見、れ、り、人、の、成、る、程、終、り、て、飛、び、上、り、の、い、か、
く、女、人、路、の、亭、主、を、鹿、の、布、き、度、の、い、か、し、手、上、座、
を、縮、縮、の、足、履、お、と、寄、お、給、の、足、履、を、与、へ、し、お、給、
え、禮、を、直、ち、と、包、紙、を、解、いて、見、て、品、評、す。ま、人、は、
非常、に、喜、び、て、足、履、を、穿、き、着、いた、う、肩、を、か、ち、め、
て、小、兒、の、如、く、は、しゃ、く、亭、主、は、言葉、少、く、し、き、う、に、
感、謝、の、意、を、表、す。

Börschmann の家内、廣く奥、内、に、壁、面、は、か、
た、支、那、画、。卓、子、や、書、上、の、支、那、陶、器、。小、さ、き、櫥、を、と、
見、せ、た、ら、が、多、痛、破、な、ら、は、一、つ、お、く、。明、朝、代、に、

Friedrich der Große 1712-1786

皆、哲	Kant	1724-1804	Gaut	大、教、官、
文、學	Goethe	1749-1832	1777-	1885
、	Schiller	1759-1805		
、	Fichte	1762-1814		
音楽	Beethoven	1770-1827		A. Düren
書、評	Hegel	1770-1831		1471-1852
政治	Kierkegaard	1813-1855		
、	Arnold Spangler	1880-1934		
、	Edward Spranger	1852-		
、	Karl H. Marx	1818-1883		

滑るもの一つかある。彼の家計、仕事量と見るに、彼が多年の努力で成る富強、参考書相當の多く、目下編著に居る書有り。その精力は大に見るべき事、悲しい點、彼は支那の本草を知らず、支那の歴史を知らず、只だ雜然と支那の建築と應め、形に従つて類々人とするものにて、言はく素人の仕事なり。支那建築専門家の仕事とは異なる點、予は之を學識を疑ふ。

是より予は彼を数種を質問し、多少得る所あり。午後七時迄は静寂、是より又都庵に赴き、今日は餅もちを食ふ。うまいやなかぬとも思ふ。午會は朝日新聞社の加茂、宮本、佐藤博士等來り合ふ。午後九時時憩し、病み歸れば十時中あり。小休息の後、飯田博士を奇癩を二三枚書して矯正すべきことを論じ、今夜は飯田神妙に歸る。勤めて之を矯正すべしと言へり。彼の奇

癩の中予の指摘せるは、

1. おどてふ時つ草鞋(彼は自らおどて着るを自認す)
 2. 物を取取ると上ツタダ木を取付をすること
 3. 談話を興するてき一語一句毎につくこと
 4. 同時の事は多様なり、變を曲げること
- 等あるが彼は自ら少しや交が性的といふ。但し幼少の時より両親に戒められ、「走り廻るな、物をさわると罰せらる」といふ訓誨あり、友人よりを奪う物と知されたりと述懐せり。

彼の癩は其の奇癩を全然矯正することは不可なり。少しは改まることを得るや知れずと一掃の望を有し居る。それを知りて、

影にて時を費して疾を速き一時に至て癩を死に

① 東郷大使曰く：Hitlerは童に見ると安ん立ぬ人物である。筋骨引きよく要領感通の靈機に成る。頭腦は数学に詳し、数決演算が如し。彼は煙草も、酒も、女も禁じ、身を持ちこたへず。政務は、下僕に命じて調査立案せしめ、親ら之を裁断す。尿を起し、盥く體に飽かず、精力絶倫あり。

彼の本吉子孫にありて、後世何年かある時一大帝國の世を爲るべしと喜しし由にて、是丁度Hitlerに當るといふので、Hitlerを崇拜し、既に大発展を確信して居るものなり。實際彼が此道にのみは未知數なり。彼は日本に倣ひて、旧文化を棄て、日本的精進文化、日本的團體を立つることを理想として居る様である。

おどてふ時つ草鞋の癩癩
一対二人曰く、支那の意に於て、日本海軍陸戦隊が其の製する軍靴、洋靴と有する數萬の支那兵に對して欠く之處を防止したるは如何なる力によるか。日本が十八の兵士靴を以て優秀なる支那の五十餘艘と戰ひ、よくその三十餘艘を撃破したるは如何なる力によるか。

日本人は、これ精神力の敏なりと自ら稱すべからず。元來精神力には何處もその優等すべからず。

② 國語問題
國語問題を毎戸下やき堂で記述せしめる。
1. Christentum 國民の信仰を問ふより、
2. Gottgläubig と Christentum、Katholik
3. Gottes. の Protestantismus
人語に録せり。

予はこれにて使命を完了せしむと思へば、
安んじて會々この満ちて、早速寢を罷りて覺れ
た神身を休めた。



18.	Prof. Dr. Haushofer	München
19.	" " Friede	Moskau
20.	" " "	Bonn
21.	" " Gumbert	Hamburg
22.	" " Erolang	"
23.	Hagenbeck	"

予の知り合ひの人々

- ① Seine Excellenz Admiral Förster
Deutsch-Japanische Gesellschaft.
Kurfürsten Str.
- ② Prof. Dr. Rammung
Japaninstitut
Kurfürsten Strasse 10.
- ③ Dr. Wals
- ④ Dr. Rumpf
- ⑤ Fräulein von Schulz
- ⑥ Herr Krafft } L. Gesellschaft
⑦ " Zahl }
- ⑧ Prof. Dr. Kimmel
Generaldirector, Völkermuseum
Potsdamplatz
- ⑨ Prof. Dr. Scharschmidt
Auslandsschule
- ⑩ Prof. Dr. Spranger
Berlin-Jahlon Falck str. 13
- ⑪ " " Brischmann
Technische Hochschule,
Charlottenburg.
- ⑫ Herr Gesandter Dr. Stieve
Auswärtiges Amt, Berlin
- ⑬ Herr Legationsrat Roth
Auswärtiges Amt, Berlin
- ⑭ Herr Staatsminister Wacker
Kulturministerium, Berlin
- ⑮ Dr. Eckardt
Auswärtiges Amt, Berlin
- ⑯ Bütz
- ⑰ Roldorf

Belästigung. 1891.

Störung. 37. 1891.

21. 11. 1891. Bei der Tier-Exposition 7

8. 12. 1891. = das Geleit & beim Abschied
gehen.

11. 12. 1891. = 12. 12. 1891. =

Ich danke Ihnen bestens, dass Sie mich
bis an die Bahn begleitet haben.

Bitte, lassen Sie = 14. 12. 1891.

Schrubbig = 粗野な
 Schlack = 破敗, 荒れ果てた
 Trüfstein = 腐石
 Quittung = 受取証
 auflösen = 溶かす
 Auspacken = 荷造りをする
 Gefahr = 危険
 Falls = 万一の場合
 Angabe = 告知, 通知
 Veranstellen = 用意する
 Verleihen = 貸す
 Kollege = 同僚
 in Verlegenheit sein = 苦慮する
 überweisen = 手渡す
 Frisieren = 理髪する
 Auf der Aufbewahrung gehen (in Verwahrung)
 zur Aufbewahrung schicken = 預ける (in Verwahrung nehmen)
 Elektrik = 電気
 Klinker, Vor Klinken = 土間
 Abfließen = 排水
 ab = (B) 上: Obgleich, obwohl, ob
 auffallend = 目立つ, 奇異
 ausführlich = 詳細に
 Vorfall = 不意の出来事, 事故, 故障 = accident
 zustellen = 運ぶ (手紙など)
 erbitten = 懇願する
 vorläufig = 暫くの間, 仮に
 Rundfunk = 放送
 Vorhaben = 計画
 anlässlich = 機会として (Geburt)
 Juvencien = 若さ, 青春
 langweilig, Zeit zu lang = 長い

Sever = Freeman

Allmählich, Schritt für Schritt, nach und nach
 falls = 万一
 Binsenlei = 同位, 同義語
 Kücheltisch = 台所
 Kräftig = 力強く
 Wiesen = 草地
 Gähnen = 欠け
 Windlassen (Furg) = 吐き出す
 Störig = 邪魔
 Schlechtweg = 悪路
 Oberhaupt = 首領
 Geschweize = 汗
 Ich bestatige den Empfang Ihres Schreibens = 貴書を受領した
 Im Saketracht = 小道具
 Verfügbar = 利用可能
 Lokale = 公衆の場
 Geselliges Beisammensein = 社交
 schauwiger Kerk = 牢獄
 Baumstamm = 木材
 Zeitungsredaktion = 新聞社
 zurückgeben = 返す
 fordern = 要求
 Ausschusspapier = 紙切れ
 Es hilft nichts = 仕方ない
 Verma = 夢
 Es wird mir schämlich von Ihnen
 zu müssen = 必要
 Geomithiol = 幾何学
 Normesam = 標準

Wiederholen 繰り返す
 bitte sehr 非常に
 Was mich betrifft 就我
 A hat mir geboren 産む
 Gedenke 記念
 Gedenke 記念
 Gedenke 記念

Vorlesung 講演
 Was mich angeht 就我
 Worte 言葉
 Worte 言葉
 Worte 言葉

Wort 言葉
 Wissen 知識
 Wissen 知識
 Wissen 知識

Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉

Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉

Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉

Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉

Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉

Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉

Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉

Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉

Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉

Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉

Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉

Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉

Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉

Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉
 Wort 言葉

香椎花館長 生野 完 ^{Prager}
事務長 堀江洋一 ^{事務長}
[Redacted] 小林恒治 (計)
汽園長 下野鳳二

回地界世近最

牙頼編慶省三
像空時臨年四和順
三二十八四一

小村大雲 〇六

クライマの改他者(四才)青海 龍見ガ
正月十二日

渡獨記

上

自明治二十二年十月十一日
至二十三年十月十一日